

2025
令和7年度

令和7年度 島根大学医学部地域医療支援学講座 報告書



島根大学医学部 地域医療支援学講座報告書



ANNUAL REPORT

COMMUNITY MEDICINE MANAGEMENT



国立大学法人
島根大学医学部地域医療支援学講座
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
TEL(0853)20-2558 FAX(0853)20-2563
career@med.shimane-u.ac.jp



COMMUNITY MEDICINE MANAGEMENT

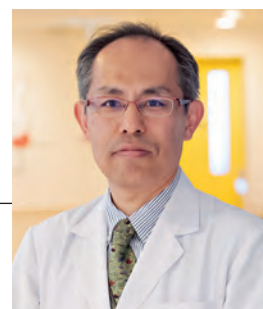
目次 CONTENTS

ごあいさつ	02
 島根大学医学部地域医療支援学講座メンバー紹介	04
 講座紹介	05
 1年間のあゆみ	06
(1) 学生教育	06
(2) 学生支援等	21
(3) 教育FD	37
(4) 地域医療交流サロンの取り組み	38
(5) 地域医療支援等	46
(6) 高大連携活動	50
(7) 広報誌・ホームページ等による情報発信	53
(8) 島根総合診療専門医育成ネットワークの取り組み	56
(9) ワークライフバランス	61
 業績	67
 写真で見る1年間	74
おわりに	81



ごあいさつ

MESSAGE



島根大学医学部長 竹谷 健

平素より本講座へのご支援とご理解を賜り、心より御礼申し上げます。

さて、島根大学医学部 地域医療支援学講座では、本年も県内の医療・保健・行政機関や地域の皆さまとの連携を深めつつ、地域医療を担う次世代の医療人育成と、地域医療の質向上に向けた諸活動を展開してまいりました。本講座は、医学生や研修医の地域医療への関心を育む「教育的企画」の実践、および働きやすい医療環境やワークライフバランスの整備支援など、多面的な取り組みを通じて、地域医療の「担い手の定着」と「医療サービスの底上げ」を目指しております。

加えて、今年度は県内各地における実地研修やセミナー、キャリア支援イベントなどを多数実施しました。医学生や地域枠対象者は、都会では経験しづらい過疎地や離島での医療現場に触れ、地域住民との深い関わりを通して、医師としての使命と責任、そして地域医療の意義を体感しています。こうした実践型の学びは、単なる知識習得を超えて、「この地域に根ざす医療人」としての自覚と覚悟を培う非常に重要な機会となっております。

また、医療提供体制の改善・維持をめざす行政や地域医療機関との連携は年々強化されており、講座を拠点としたネットワーク — 学内の他講座・研修センター、県・市町村、地域医療機関、そして地域支援機関との協働体制 — は今後もますます重要性を増すと認識しています。

こうした取り組みの成果は、今回の「令和7年度活動報告書」にも詳しくまとめております。ご一読いただき、今後の地域医療、そして本講座のさらなる発展に向けたご意見やご助言を賜れば幸いです。地域の医療を支える歩みは、決して講座だけのものではありません。地域の皆さま、医療機関、行政、そして大学が一体となって、少しずつ前へ進む——そのような「共創の医療」の実現を、私どもは心から願っております。

結びに、本年度も皆さまからいただいたご指導とご協力に深く感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ごあいさつ

MESSAGE



地域医療支援学講座 教授 佐野千晶

皆様方には、島根大学医学部地域医療支援学講座の取り組みに対しまして、平素より多大な御協力賜り、深く感謝申し上げます。

2025年度は、団塊の世代が75歳以上となる地域医療構想の節目となり人口減少社会をより実感させられる年でありました。医療人育成においても人口減少する中、地域枠等入学制度の在り方も現在新たな岐路にたっております。島根県の医療を守るためには、若者に島根の地域医療に興味をもってもらうことが益々重要になってきていると痛感しております。総合的な診療能力を有する医師の育成等に全力で取り組んでまいりたいと思います。

当講座では春季・夏季の地域医療実習、フレキシブル実習に加え、5年生全員が対象となるクリニカルクラークシップ総合診療・地域医療コースやポストコロナ医療人材養成事業に関する実習に関わらせていただいております。そういった参加型実習の実施によって参加者の学びが深くなるような企画に今後も積極的に取り組んでまいりたいと思います。これらの企画はいずれも受け入れ機関、施設様はじめ多くの地域の関係者皆様のご理解ご協力により実施出来ております。皆様の教育的な示唆やご尽力により貴重な学習環境が成立しております。参加学生からは、学びが深まった、有意義であったという感想と受け入れ施設・スタッフ様への感謝の言葉が多数寄せられています。ここに心より御礼申し上げます。

今後も医学生が地域医療の魅力を実感し、これからの地域医療の在り方を考える機会作りを積極的に展開していきたいと思います。そして一人でも多くの学生らが、島根に愛着をもって社会貢献したいと思ってもらえるように取り組んでまいりたいと思います。

また、本年度も引き続き地域医療に関する臨床研究を地域の先生方や大学院生と継続実施しております。多くの診療科の若手医師が、地域で勤務しながらリサーチマインドをもって努力し研究を行っています。こういった研究環境も地元住民様、機関長様はじめ多くの関係者皆様の温かなご支援の賜物に他なりません。これからも若手医療人キャリア支援にご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

加えて、地域医療学Ⅰ・Ⅱ、地域医療セミナー、キャリアセミナーにおいても多くの先生方に講師等でお世話になり有難うございました。島根には、地域全体で医師を育てるといった魅力的な風土があると思います。地域医療に関する課題は重いものがございますが、課題を解決すべき夢ととらえ皆様と共に切磋琢磨を続けてまいりたいと思います。

今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。



島根大学医学部地域医療 支援学講座メンバー紹介

MEMBER

1 教員

教 授	佐 野	千 晶	平成31年 4 月～
助 教	布 野	慶 人	平成29年 4 月～
助 教	堀 田	優希江	令和 2 年 7 月～
特任助教	家 本	美 佳	令和 6 年 4 月～

2 事務職員

特定職員	高 橋	和歌子	令和 3 年 5 月～令和 8 年 3 月
特定職員	楠 田	有 希	令和 3 年 5 月～令和 7 年12月
特定職員	伊 藤	美 玖	令和 6 年 5 月～令和 7 年 4 月
特定職員	丸 山	彩	令和 7 年11月～
特定職員	長 島	加代子	令和 8 年 2 月～





講座紹介

COURSE

当講座は、地域医療教育学講座、総合医療学講座、総合診療医センター、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして島根県や市町村、しまね地域医療支援センター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図っている。学生が地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませるように、また医師としてのキャリアアップと県内で安心して働ける環境づくりを支援するために、以下の様な取り組みに関わっている。

1 医学科学生教育

《学生教育》

- 1年生：講義「地域医療学Ⅰ」【必修】
- 2年生：講義「地域医療学Ⅱ」【必修】
- 3年生：研究室配属【必修】
- 4年生：ドクターキャリア形成特別講義（キャリア教育）【必修】
- 5年生：臨床実習（総合診療・地域医療）【必修】
- 6年生：臨床実習（地域医療実習）【選択】
- 1年～6年 夏季・春季休業期間：地域医療体験実習Ⅰ（夏季・春季地域医療実習）【自由】
- 1年～6年 通年 必修科目時間外：地域医療体験実習Ⅱ（フレキシブル実習）【自由】

《学生支援》

- 地域医療セミナー：学外講師招聘（年7回）
- Career seminar：学内講師招聘（年10回）
- ビデオセミナー（8月3月を除く月4回）
- 総合診療医ブラッシュアップセミナー（年1回）
- 総合診療専門医プログラム説明会（本年開催なし）
- 感染症セミナー（年1回）
- 学生面談、学生と地域との交流支援、学生企画の支援 等

2 医師のキャリア支援活動

- 地域枠等医師、奨学金貸与医師、その他希望者を対象にしたキャリア支援
- 総合診療専門医育成支援、しまね総合診療の集い（年6回）
- しまね地域医療支援センター理事及び専任医師（教授）
- Iターンを含む県内医師のキャリア支援、研修会等の託児支援

3 地域医療支援

- 地域医療システムマネジメント支援、ワークライフバランス支援（復職支援を含む）
- 地域医療を支える住民活動支援、地域医療コーディネータ支援、地域医療研究会支援



1年間のあゆみ

TIMELINE

I 学生教育

① 地域医療学I

平成28年度から医学部1年生を対象に地域医療学Iの授業を開講している。

【期 間】令和7年10月3日(金)～令和8年1月23日(金)

後期日程より医学科1年生の「地域医療学I」の授業を行っている。

地域医療学Iは、6年間を通した地域医療教育プログラムの最初の授業科目である。島根県の地域医療の実践を理解することに加え、医療を多角的な視点から理解をすることを目指している。地域医療を実践している医師のみならず、公衆衛生、医学史、国際協力等、学内外の講師と連携し実施している。多様なバックグラウンドを持つ個性豊かな講師陣の講義は、地域医療への指向性を高める第一歩になることが期待される。

また、夏季休業中に地域医療体験実習I・IIに参加した学生の学びが、この講義を通じて統合されることや、新たな実習に導かれることも期待したい。

授業日程表(令和7年)

回	月日	時間	場所	授業内容	担当
1	10. 3 (金)	13:40 ～ 14:40	L3	地域医療とは	佐野 千晶
2	10. 10 (金)		臨床大講堂	医学史ー華岡流外科の普及と近代医学	梶谷 光弘
3	10. 17 (金)		L3	ネパールでの医療貢献:その限界と将来	森 隆治
4	10. 24 (金)		L3	多職種連携I(特別講演)	佐野 千晶 (伊藤久美子)
5	10. 31 (金)		L3	市街地の地域医療	花田 梢
6	11. 7 (金)		L3	離島の地域医療	白石 吉彦
7	11. 14 (金)		L3	中山間地の地域医療I	上野 伸行
8	11. 21 (金)		L3	中山間地の地域医療II	角田 耕紀
9	11. 28 (金)		L3	病院前救急	布野 慶人
10	12. 12 (金)		L3	公衆衛生行政と地域医療	村下 伯 (オンデマンド)
11	12. 19 (金)		L3	地域包括ケア	谷口 栄作
12	12. 26 (金)		L3	災害医療	比良 英司
13	1. 9 (金)		L3	高齢社会と地域医療	杉谷 亮
14	1. 23 (金)		L3	多職種連携II(グループワーク)	堀田優希江



② 地域医療学Ⅱ

【期 日】令和8年1月6日(火)～令和8年1月22日(木)

令和5年度より、地域医療の学びの継続をはかるため医学科2年生を対象に地域医療学Ⅱの授業を開講している。今年度は14コマの一つの单元として行った。前半は島根大学医学部『有終会』の方々にお話を伺い、価値観や生き方についてヒストリーテイキングをおこなった。後半はプレホスピタルについて学び、BLS演習を行った。大学の中だけでは地域医療は完結しない部分が多いことを学んだ。

授業日程表(令和7年)

回	月日	場所	授業内容
1	1/6(火)	臨床大講堂	オリエンテーション
2	12:50～15:00		
3	1/13(火) 12:50～17:20	臨床大講堂	有終会会員へのヒストリーテイキング
4			
5			
6			
7	1/15(木)	臨床大講堂	ヒストリーテイキング振り返り
8	12:50～15:00		
9	1/20(火)	臨床大講堂	出雲市消防本部による講演
10	12:50～15:00		
11	1/22(木) 12:50～17:20	臨床大講堂	BLS講習会
12			
13			
14			



③ 研究室配属

【期 間】令和7年9月1日(月)～10月3日(金)

研究室配属は各々が興味のある講座で1か月実習を通して勉強する。当講座には地域医療に興味をもつ6名が配属された。地域医療支援学講座の研究室配属では、①チーム医療・多職種連携の実際を理解すること、②地域の保健・医療・福祉・介護の現場を実際に見て体験し、地域包括ケアシステムや今後求められる医師の資質についてじっくりと考察し実践的なスキルを習得することを学習目標として掲げている。

今年度も大学講義室から飛び出し多様なフィールドで実習を行った。診療所、訪問看護ステーション、保健所、消防本部、がんサロン、地域医療連携センター、江津市、浜田市に足を運び、地域医療の学びを深めた。振り返りの報告会のプレゼンテーションでは、積極的な意見交換が行われ盛会であった。これからの学生生活、ひいては将来の地域医療実践に今回の経験が活かしてくることを期待している。



④ 臨床実習入門特別プログラム ドクターキャリア形成特別講義(キャリア教育)

臨床実習前の医学科4年生を対象にした、キャリア教育を島根県医師会と共に主催している。

【日 時】令和7年11月13日(木) 9時40分～16時10分

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【対 象】島根大学医学部4年生

【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

【共 催】日本医師会 島根大学ダイバーシティ推進室

島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

【内 容】

- ① 講演ならびにワーク
広島大学医学部附属医学教育センター 教授 蓮沼 直子 先生
- ② キャリアモデルの紹介
島根大学医学部 呼吸器・臨床腫瘍学 学内講師 濱口 愛 先生
島根大学医学部附属病院 小児脳神経疾患治療センター センター長 君和田 友美 先生
島根大学医学部 内科学講座内科学第一 准教授 野津 雅和 先生
- ③ 島根大学におけるダイバーシティ推進の取り組み
島根大学副学長(男女共同参画担当) 河野 美江 先生(オンデマンド)
- ④ 島根県「えんネット」の取り組み
島根大学医学部 地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

【医師会特別講演】

特別講演 「緩和ケア医として生きること」

信州大学 信州がんセンター緩和部門 教授 間宮 敬子 先生



⑤ 臨床実習入門特別プログラム 特別講演(ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業)

【日 時】令和7年11月14日(金)10:50～11:50

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【対 象】医学部医学科4年生

【講 師】岡山大学学術研究院医師薬学域

地域医療共育推進オフィス特任准教授 香田 将英 先生

【概 要】「臨床の質を上げるための生成AI活用」と題して、生成AIとの付き合い方、情報リテラシーについて学んだ。生成AIを利用した論文の検索方法や様々な生成AIの特徴についてお話しいただいた。臨床現場に出ることで疑問が増え、その時の情報収集の方法として生成AIを賢く利用する方法を学ぶことができた。個人情報の取り扱いには細心の注意を払い、一般的な知識を蓄積していくことで具体的な治療に対する疑問が生まれ解決できることを教えていただいた。

生成AIを利用することで自身の能力を拡張し、スキル向上がめざせること、大事なものは己であり、生成AIの利用でやりたいことに専念できることを教えていただいた。学生からは「使い方を間違えなければ、仕事やプライベートをさらに豊かにさせるコンテンツであると感じた」と感想があった。



⑥ 臨床実習入門特別プログラム 特別講演

【日 時】令和7年12月9日(火)13:00～14:30

【場 所】島根大学医学部臨床大講堂

【対 象】医学部医学科4年生

【講 師】NPO法人ささえあい医療人権センター

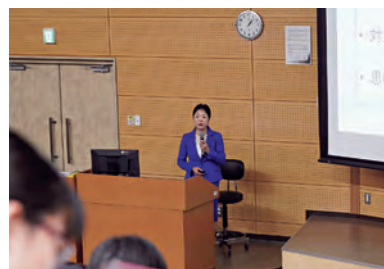
COML理事長 山口 育子 氏

【概 要】「患者と向き合う 臨床実習直前の医学生の皆さんへ」と題して、臨床実習に臨む心構えについて講演をいただいた。

ご自身やCOML創設者の思いも含めて、ささえあい医療人権センターCOMLの創設の経緯と活動についてお話しいただいた。「患者が医療者に求めていること」「患者が不信感を抱く医療者の対応」「患者の理解を阻害するもの」「こんな医師に出会いたい」等について分かりやすくお話し頂いた。

学生からは、「患者を尊重するという意味についてじっくりと考えることができた」「患者さんに対してただ説明すればよいというわけではなく向き合うことが大切だと学べた」等の感想が寄せられた。

実習を前にした学生は具体的な示唆に気持ちを引き締め、実習に臨む心構えができたのではないかと考える。



⑦ 臨床実習（総合医療・地域医療実習）

本実習は、4-5年次の必須臨床実習Ⅰにおいては、附属病院の全診療科をローテーションして実習を行う。

5-6年次の臨床実習Ⅱでは、地域病院での実習も可能となっている。

総合診療を実践する医療者の指導のもと、真の参加型実習を通じて、実践的臨床能力を修得することを目指す。行動目標として、プライマリ・ケアの実践や地域包括ケアの理解ができるように努力している。

当講座の教授は、実習前のオリエンテーションや4週間の実習最後の総括として行われるフィードバックに参加している。



令和7年度 総合診療・地域医療実習モデルスケジュール（必須臨床実習）

	月	火	水	木	金
1週目	「届く言葉」と 「届かない言葉」 鬼形和道先生 (Zoom)			「総合診療1週目の学び」 牧石徹也先生 (Zoom) 個別フィードバック (Zoom) 牧石徹也先生 白石吉彦先生 長尾大志先生	
2週目	「医療面談」 ヴェロニカ先生& 牧石先生 (Zoom)			個別フィードバック (Zoom) 牧石徹也先生 白石吉彦先生 長尾大志先生	
3週目			「患者中心の 医療技法について」 高橋賢史先生 (Zoom)		個別フィードバック (Zoom) 牧石徹也先生 白石吉彦先生 長尾大志先生
4週目			「プライマリ・ケアの ACCCA」 佐藤 誠先生 (Zoom)		学生の実習発表会 臨床小講堂

■令和7年度島根大学医学部地域医療教育連絡会

主に臨床実習Ⅱ 選択臨床実習 6年生

本学学生は、大学病院では経験できない様々な医療の側面を学習し、医療全体を見渡すことのできる広い視点を養い、医療の本質に対する理解を深めるため、県内の地域医療機関で実習を行っている。この地域医療実習を更に充実させるため、県内医療機関を8つのブロックに分け、地域医療教育に携わる本学医学部教員と各ブロックの実習担当者（指導医等）と意見交換を行うものである。

今年度はなるべく一度に多くの声を共有するため、原則全機関を対象に2回行った。

実施日	内 容
6月11日(水) 6月16日(月)	①令和7年度島根大学医学部地域医療実習（6年生について）
	②令和7年度臨床実習日程について
	③情報交換 事前アンケート、改定版モデルコアカリキュラム

進行・主担当 佐野 千晶

■令和7年度5年生臨床実習I振り返り会

総合診療・地域医療、産婦人科、小児科合同（4週間クリニカルクラークシップ診療科）

参加者：地域病院 研修担当者

実施日	内 容
6月16日(月)	①地域病院との今年度の臨床実習現況について振り返りを行う。

進行・主担当 竹谷 健先生（臨床実習専門部会長、小児科）

■総合診療／地域医療学実習説明会

医学科4年生向け

実施日	内 容
7月30日(水)	①令和7年度総合診療・地域医療クリニカルクラークシップ説明（必須 臨床実習Ⅰ）
	②各医療機関の動画視聴
	③質問並び諸手続き

進行・主担当 牧石 徹也先生（総合医療学講座）

佐野千晶が質問対応した。

⑧ 地域医療体験実習I(夏季・春季地域医療実習)

夏季・春季地域医療実習は、島根大学医学部が島根県と連携して行う実習である。2次医療圏の7つの保健所が、圏域の医療機関や福祉施設、地域包括支援センター、医療機器メーカー等に依頼・調整を図り企画するものである。学生たちは体験や見学を通して、地域医療の現状や公衆衛生業務に対する理解を深める。

参加者募集

令和7年度 島根大学医学部
夏季地域医療実習

■期間：
8月18日(月)～21日(木)
のうち3～4日間

■島根県内7圏域(離島含)から
選択可

■旅費支給あり

■申込み切：7月3日(木)
(詳細はホームページをご覧ください
(左記QRコード))

島根大学
SHIMANE UNIVERSITY
医学部学務課 教育改善・教務担当
島根県出雲市塩治町89-1
TEL : 0853-20-2085
Mail : kyomu1@med.shimane-u.ac.jp

参加者募集

令和7年度 春季地域医療実習

島根県内7圏域
(離島含)から
選択可

■旅費支給あり

■申込み切：1月19日(月)

■表習期間
3月2日(月)～5日(木)
のうち3～4日間

■申し込み方法
詳細はホームページを
ご覧ください
(右記QRコード)

島根大学医学部学務課 教育改善・教務担当 住所：島根県出雲市塩治町89-1
TEL : 0853-20-2085 Mail : kyomu1@med.shimane-u.ac.jp

■令和7年度地域医療体験実習I(夏季地域医療実習)報告会

【報告会】令和7年8月22日(金)14:00～16:00

【参加者】37名(学生22名)

【実習参加者】島根大学15名、鳥取大学2名、自治医科大学5名、横浜市立大学2名 計24名

【概要】島根県内7圏域の保健所や医療機関の協力のもと夏季地域医療体験実習が実施され、全国4大学から24名の医学生が参加した。

8月の猛暑のなか、地域の医師や多職種の指導を受け、診療所や訪問看護で住民と関わった。中でも、運転免許の返納問題や人口減少の実態など、地域特有の課題に触れ、現状への理解を深めることができた。実習先での振り返り会では、学生自身が地域医療の現状や課題を整理・考察して発表した。

最終日は、実習先の方も交えオンライン報告会が開催された。5グループに分かれて「印象に残った体験」「地域医療の魅力と課題」「課題鮮決のための提案」をテーマに議論した。高齢化社会の生活支援の難しさや過疎地域の医療提供体制について熱心に考察した経験が、将来の地域医療への関心と意欲の向上につながることを期待する。

【期 間】8月18日(月)～8月22日(金)

報告会 8月22日(金)

実施機関	実施地区	日 程	参加人数
松江保健所	松江	8月18日(月)～20日(水)	2名
雲南保健所	雲南市立病院	8月18日(月)～20日(水)	2名
	飯南町立飯南病院	8月18日(月)～20日(水)	1名
	町立奥出雲病院	8月18日(月)～20日(水)	3名
出雲保健所	出雲	8月19日(火)～21日(木)	2名
県央保健所	県央 大田地区	8月19日(火)～21日(木)	2名
	県央 邑智地区	8月18日(月)～20日(水)	2名
浜田保健所	浜田	8月18日(月)～20日(水)	4名
益田保健所	益田	8月19日(火)～21日(木)	4名
隠岐保健所	隠岐 島後	8月18日(月)～21日(木)	2名

参加者合計 24名

【学年別内訳】

1年	2年	3年	4年	5年
16	2	3	2	1

【大学別内訳】

島根大学	鳥取大学	自治医科大学	横浜市立大学
15	2	5	2



■地域医療体験実習Ⅰ(春季地域医療実習)&報告会

【日 時】令和8年3月2日～5日(実習期間) 令和8年3月6日(報告会)

【参加者】島根大学13名、鳥取大学1名

【概 要】島根県の6圏域にある保健所で、関係機関の理解と協力で実習が実施された。保健所長からは医療・介護連携や地域の課題について説明を受け、実習施設では地域医療の役割を学んだ。病院や診療所では外来診療の見学に加え、訪問診療や訪問看護に同行し、多職種連携や住民の生活に触れる機会を得た。

6日の報告会では各グループに分かれ、「想像と違ったこと」「地域医療で大変だと感じたこと」「地域医療を良くするために医学生にできること」について議論した。医学生として、SNSでセミナーやイベントを発信したり、友人を誘って実習に参加してもらうことで、地域への関心を広げられるのではないかという意見が出ていた。

この実習を通して地域医療の問題と課題を考える有意義な学びの機会となった。

【期 間】令和8年3月2日(月)～5日(木) 報告会 3月6日(金)

実施機関	実施地区と計画書	日 程	参加人数
松江保健所	松江	3月2日(月)～4日(水)	2名
雲南保健所	雲南市立病院	3月2日(月)～4日(水)	1名
	飯南町立飯南病院	3月2日(月)～4日(水)	1名
出雲保健所	出雲	3月2日(月)～4日(水)	2名
浜田保健所	浜田	3月2日(月)～4日(水)	4名
益田保健所	益田	3月2日(月)～4日(水)	3名
隠岐保健所	隠岐 島前	3月2日(月)～5日(木)	1名

参加者合計 14名

【学年別内訳】

1年	2年	5年
5	8	1

【大学別内訳】

島根大学	鳥取大学
13	1



⑨ 地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)・ポストコロナ事業実習

島根の地域医療に対する理解を深めてもらう為に、学生自らが希望実習病院にコンタクトを取り、実習内容を計画立案する実習である。今年度は、地域医療研究会(学生サークル)を含む延べ41名の学生から申し込みがあった。

令和7年度地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習・ポストコロナ事業実習)参加実績

施設名	期間		医学科						小計
	自	至	1年	2年	3年	4年	5年	6年	
浜田医療センター	令和7年4月21日	令和7年4月25日						1	1
大田市立病院	令和7年5月7日	令和7年5月8日						1	1
◇鳥取大学医学部附属病院	令和7年8月4日	令和7年8月6日	1						1
浜田医療センター	令和7年8月6日	令和7年8月8日						1	1
波佐診療所	令和7年8月23日	令和7年8月27日	1	1					2
					2				2
済生会江津総合病院	令和7年8月25日	令和7年8月27日	1		1				2
波佐診療所 (さざんか祭り)	令和7年11月1日	令和7年11月1日		2					2
					2				2
	令和7年11月1日	令和7年11月2日	1	1					2
					2				2
	令和7年11月2日	令和7年11月2日	1	1					2
					2				2
松江刑務所	令和7年12月23日	令和7年12月23日				9			9
大田市立病院	令和8年2月17日	令和8年2月18日		1	1				2
波佐診療所	令和8年2月19日	令和8年2月20日	2	1					3
◇奈義ファミリークリニック	令和8年3月2日	令和8年3月6日		1					1
◇奈義ファミリークリニック	令和8年3月9日	令和8年3月19日		1					1
合 計			7	9	10	9	0	3	38

◇印はポストコロナ事業実習(ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業)

■地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)&ポストコロナ事業実習報告会

【日 時】令和7年5月27日(火)18:00~19:00

【期 間】令和7年2月~令和7年5月

【参加者】24名(学生11名)

【概 要】令和7年2月から5月まで地域医療体験実習11およびポストコロナ事業実習に参加した学生は11名で(昨年度ポストコロナ事業実習1名を含む)であった。三朝温泉病院、哲西町診療所、波佐診療所、浜田医療センター、大田市立病院、鳥根大学医学部附属病院の6病院に受け入れていただいた。

報告会では6名の代表学生が実習の感想や学んだことを発表し、地域での学びを共有した。感想からも「実習を通じて地域医療の理解がさらに深まった」「スタッフ・住民の方に親切にしていたき地域の温かさを感じた」等貴重な経験ができたことが伺えた。

学生は、これからも積極的にさまざまな場所へ出向き、地域の風を肌で感じてもらいたい。



■第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会学生参加支援

【期 間】令和7年6月20日(金)~22日(土)

【場 所】札幌コンベンションセンター・札幌市産業振興センター

【参加者】学生1名

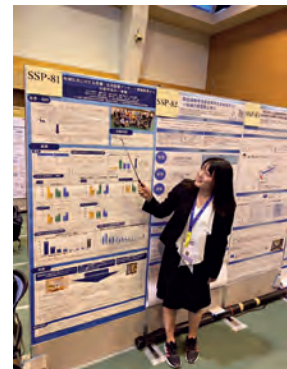
■第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会参加して

報告者:医学科4年 川上 日輪乃 さん

第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会に、地域医療研究会の代表で参加した。会場は札幌コンベンションセンターと札幌市産業振興センターの2か所で、シンポジウムや講演、ポスター発表などが多数行われていた。

私は学生セッションにおいて「地域住民に対する栄養・生活習慣アンケート調査結果からの医学生の一考察」というテーマでポスター発表を行った。これは昨夏の合宿をもとに、浜田市の産業祭「さざんか祭り」で実施した医療ブースでの活動をまとめたものである。来場者に対し栄養や生活習慣に関するアンケートや測定を行い、結果を分析して発表した。初めての学会発表で不安も大きかったが 地域医療支援学講座をはじめ、多くの先生方や仲間の支えのおかげで、安心して臨むことができた。他の学生発表やシンポジウムも非常に学びが多く、有意義な時間だった。

今後もこのような機会に積極的に挑戦し、後輩の参加も後押ししていきたい。



■「オキフェス2025」学生参加支援

【期 間】令和7年9月6日(土)~7日(日)

【場 所】隠岐の島

【主 催】隠岐病院 島の医療人育成センター

【参加者】学生3名



■「Western Carnival」学生参加支援

【期 間】令和7年9月13日(土)～14日(日)

【場 所】浜田医療センター

【参加者】学生1名



■「さざんか祭り」学生参加支援

【期 間】令和7年11月1日(土)～2日(日)

【場 所】浜田市金城町 多目的広場

【参加者】学生12名

■浜田市金城町の産業祭「さざんか祭り」に参加して

報告者:医学科3年 天願 由依菜 さん

私たち地域医療研究会(以後ちいけん)は「島根大学医学部with波佐診療所」として参加しました。

当日はメンタルヘルスをテーマにブースを設け、来場者にエゴグラム(性格診断)検査を体験していただきました。また、子育て世代の方々にも気軽にお立ち寄りいただけるよう、キッズスペースも設置しました。2日間で延べ120名を超える多くの方にご来場いただき、「初めてのエゴグラム検査、かなり当たっていて驚いた」「子供が遊べるスペースは助かった」など、嬉しい声を多数いただきました。

地域の皆様と直接交流する中で、多くの学びや気づきを得る貴重な機会となり、ちいけん全体としても地域とのつながりをより深めることができました。

最後に、開催にあたり多大なるご支援・ご協力を賜りました諸先生方、地域医療支援学講座の皆さま、波佐診療所の皆さま、そして本活動に関わってくださった全ての皆さまに、心より感謝申し上げます。



■地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習報告会)

【日 時】令和7年11月26日(水)17:30～19:00

【場 所】島根大学医学部附属病院みらい棟2階
共通カンファレンス室1

【参加者】1年生5名 2年生8名 3年生9名 6年生2名

【概 要】令和7年8月～11月に実施された地域医療体験実習Ⅱには、延べ24名の学生が参加した。実施にあたっては、浜田医療センター、波佐診療所、済生会江津総合病院、隠岐病院の医療機関に学生を受け入れていただいた。

報告会では、実習場所の代表9名が地域医療における医療提供体制や医師不足といった構造的課題、ならびに地域特性に応じた医療の工夫に対する理解を報告した。更に、今後の学習への動機づけ、将来の進路選択に関する意識の変化についても発表があった。

学生は地域医療の現場で、診療の工夫や多職種連携の重要性、地域住民の生活背景を踏まえた医療の在り方について、講義や学内実習では得難い実践的な学びを得ることができた。



⑩ 大学院教育

島根大学大学院医学系研究科医科学専攻

【博士課程】

研究者育成コース、総合診療・地域医療コース

【修士課程】

地域医療支援コーディネータ養成コース

【指導教員】佐野 千晶 【客員研究員】太田 龍一、中畑 典子 【大学院生】16名

博士課程

【D1】

岡 耕平

【D2】

佐藤 裕

【D3】

小田川 誠治	小原 潤也	北 和也	山内 綾子
--------	-------	------	-------

【D4等】

内藤 祐美	西倉 希	山根 史子	田中 悠大
藤森 太一	堀西 祐多	馬淵 沙弥佳	馬淵 寛也
松田 親史			

修士課程

【M2】

宗田 莉奈

「2025年度 島根大学医学系研究科 学位取得」

【博士課程】

堀西 祐多

The Role of Beauty Salons in Community Health Promotion: Exploring Health Engagement and Social Connectivity in Japanese Hair Salons

馬淵 沙弥佳

Osteoporosis management in a rural community hospital in Japan: a cross-sectional retrospective study

藤森 太一

Diagnostic Errors in Japanese Community Hospitals and Related Factors: A Retrospective Cohort Study

内藤 祐美

Solving Social Problems in Aging Rural Japanese Communities: The Development and Sustainability of the Osekkai Conference as a Social Prescribing during the COVID-19 Pandemic

【修士課程】

宗田 莉奈

尿中ナトリウム・カリウム比に影響を及ぼす食物に関する探索的研究
～Masuda Study～

② 文部科学省

「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業」について

佐野千晶 事業推進委員会・カリキュラム検討委員会・実習病院等外部組織検討委員会委員

1) 山里海医学共育プロジェクト中間報告シンポジウム

2026年1月23日、岡山大学において中間報告シンポジウムを開催した。当日は、連携大学の医学部関係者や医学生、地域医療に携わる医師のほか、近隣自治体などの関係機関、本事業採択の他拠点関係者など、計90名(対面28名、オンライン62名)が参加した。

はじめに、岡山大学和田淳医学部長による開会の辞があり、続いて文部科学省高等教育局医学教育課長日比謙一郎氏より挨拶があった。本事業が大学の枠を超えた連携により教員・学生の刺激となり、知見の活用につながること、また、その成果を広く発信してほしいとの期待が述べられた。第1部では、自治医科大学医学教育センター医療人キャリア教育開発部門の菅野武特命教授が「南海トラフとポストコロナ時代に備える地域医療人材～東日本大震災の経験から見た地域をつなぐ医療と人材育成」と題して講演を行った。第2部では、4大学の事業担当教員から、これまでの取り組みおよび今後の取り組みについて報告が行われた。その後の全体討論では、各大学の事例が共有され、今後の医療人材育成に向けて活発な意見交換がなされた。



2) 高校生向け地域枠・地域医療合同説明会2025

2025年8月4日、岡山大学・島根大学・香川大学・鳥取大学の4大学医学部医学科による高校生向け合同説明会を、オンライン(YouTube Live配信)で開催した。

本説明会では、事前質問で関心の高かった地域医療の総説的な解説に加え、各大学における地域医療教育の特色ある取り組みを紹介した。島根大学からは、地域枠等について佐野が説明を行った。また、地域枠学生や卒業医師によるスピーチ動画を公開し、具体的なキャリアパスを提示した。



3) 高知スタディツアー

2025年5月31日～6月1日、高知市において、本事業「山里海医学共育プロジェクト」から岡山大学・島根大学・香川大学・鳥取大学の4校、「黒潮医療人材養成プロジェクト」から高知大学・三重大学・和歌山県立医科大学の3校が参加し、学生47名・教職員11名による合同研修を実施した。2日間のフィールドワーク実習を通して、学生たちが災害医療を多角的に捉え理解を深め、地域ひいては社会全体を俯瞰しながら地域医療に貢献できる医療人を目指すことが期待される。



4) 災害支援の国際基準 スフィアハンドブック研修

2025年8月23日～8月24日、岡山市において「スフィア基準研修」を実施した。スフィア基準は、災害の影響を受けた地域や人びとが安心・安全に暮らすための国際的な人道憲章と最低基準であり、災害支援のあらゆる分野をカバーしている。

本研修には総計26名が参加した。そのうち、岡山大学、島根大学、鳥取大学から9名の医療系学生・教職員が参加したほか、防災・災害支援系NPO職員、一般社団法人職員、自治体職員など、大学の枠を超えた多様なバックグラウンドを持つ参加者が集まり、有意義な研修となった。



5) 多地域共創型医療実習プログラム(フレキシブル実習)

2025年3月3日～3月15日まで、多地域共創型医療実習プログラムとして本学医学生が岡山県哲西町診療所での実習に参加した。

参加学生からは、本実習を通して、指導医から失敗や課題に向き合う勇気の重要性、自己の弱みを認識し改善に努める姿勢、そして謙虚に学び続けることの大切さについて繰り返し指導を受けたことで、地域医療の本質と実践について深く学ぶ機会を得るとともに、医療者としての責任感や使命感、求められる姿勢や心構えについても学ぶことができたとの報告があった。



2 学生支援等

① 地域医療セミナー

第1回 地域医療セミナー

【テーマ】総合診療医の働き方

【日時】令和7年4月22日(火)18:00～19:00

【講師】島根大学医学部附属病院 総合診療センター 准教授
島根大学医学部総合医療学講座 特別研究員
木島医院 木島 庸貴 先生

【参加者】37名(学生15名)

【概要】先生は、島根大学医学部に所属され、2年前からご実家である木島医院にて地域に根ざした診療に取り組まれている。

総合診療医の呼び名や働き方について、ご自身の診療スケジュールを説明された。また、総合診療医が1つの専門分野として確立されていることや、役割に対する社会的理解の重要性について話された。

プライマリ・ケアの質を評価するには多角的な視点が求められる。先生は、診療事例を通じてこれらの視点の重要性を解説し、さらに診療所内外での連携や最新の医療知見の活用、予防医療の実践による地域の健康維持推進への取り組みも紹介された。

講演の締めくくりには、日常生活での身体活動の増加が健康寿命の延伸につながると述べ、総合診療医として地域住民の健康を支える意義を強調された。



第2回 地域医療セミナー

【テーマ】歴史的視点から見る新しい在宅医療の世界

【日時】令和7年5月16日(金)18:00～19:00

【講師】東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所 同研修・研究センター長
同オレンジほっとクリニック 東京都地域連携型 認知症疾患医療センター長
平原 佐斗司 先生

【参加者】29名(学生7名)

【概要】先生は、在宅医療、緩和ケア、老年内科、老年精神科の専門医である。現在はこれまで在宅医療を中心に携わってこられた経験をもとに、特に非がん患者へのエンドオブライフケア(EOLケア)および緩和ケアの提供に尽力されている。

今回は、古典的在宅医療の終焉や現代在宅医療の誕生といった歴史的背景を踏まえ、新たな在宅医療の展望について講演いただいた。特に、コロナ禍において欧米で制度化が進んだ「在宅急性期医療(HaH)」の紹介が印象的であった。

高齢者の急性期医療を病院ではなく自宅や福祉施設で行うこの仕組みは、日本においても早急に制度として整備する必要があると感じた。



第3回 地域医療セミナー 医学生有志6名の企画・運営第1弾

【テーマ】日本と海外の医学教育の違い

コロンビアから日本、そしてアフリカへ

【日 時】令和7年6月16日(月)18:00~19:00

【講 師】EVOL-GAMMA 形岡 洋光 先生

【参加者】27名(学生14名)

【報告者】医学科6年 小坂田 葵 さん

【概 要】コロンビアの医学部を卒業し、国際的に活躍されている先生に講演いただいた。冒頭では、豊かな自然に恵まれる一方で、貧富の格差が大きいというコロンビア社会課題や医療制度について説明があった。

コロンビアの医学部では、「低学年に基礎医学に加えて、経営学やマナー、発明など幅広い分野を学び、3年生から臨床実習が始まる。最終学年では無医村で1年間の医療活動を行い、無医村の住民との関わりの中で、低学年で培った幅広い知識やスキルが大いに活かされている。」というお話が印象的であった。

これらのお話から、コロンビアの医学生が実際に一人の戦力として現場で活躍している事に刺激を受け、また「病気ではなく人を診る医師に」「ぜひ海外に飛び出してほしい」との言葉が心に残った。



第4回 地域医療セミナー 令和7年度地域医療研究OB会

【テーマ】地医研と小児医療

【日 時】令和7年7月12日(土)15:00~16:30

【講 師】雲南市立病院小児科

特別顧問 瀬島 斉 先生

【参加者】28名(学生12名)

【概 要】地域医療研究会と共同でセミナーを開催した。瀬島先生は出雲出身で、島根大学在学中には農山村研究会でフィールドワークや読書に励まれた。卒業後は「子どもの代弁者でありたい」との思いから小児科を専攻された。その後、益田・隠岐での地域研修、静岡こども病院での小児神経専門研修を経て、当院に赴任された。松江市立病院で勤務時代には自閉症スペクトラム障害の子どもと出会い、医療と教育をつなぐ支援の重要性を感じられ、実践を深められた。

医師としての40年にわたる歩みの中で培われた豊かな経験に裏打ちされながら、多職種・多分野との協働の重要性について、熱意をもって語られた。



第5回 地域医療セミナー 医学生有志6名の企画・運営第2弾

【テーマ】Where the World Meets the Self-global health education and transformation through a Kenyan Context

【日時】令和7年7月14日(月)18:00~19:00

【講師】浜松医科大学医学部医学科 総合人間科学講座

特任講師 Mr. Michael Boyce, M.A, EdD candidate

【参加者】30名(学生15名)

【報告者】医学科4年 田中 裕一郎 さん

【概要】浜松医科大学医学部よりMicheal Boyce先生にお越しいただき、先生がご尽力されているケニアでの性教育普及活動や医療キャンプの運営についてご講演いただいた。

先生は国際ラーニングサービス(ISL)と呼ばれるプログラムを率いて、オンラインで現地の子供に性教育を行ったり、ケニアで医療キャンプの運営などを行ったりしている。ケニア国内でもコミュニティにより特徴が異なるため、その土地ごとに行政から住民レベルに対して行う活動の重要性を知ることができた。

今回、地域医療セミナーでは初めてとなる英語での開催となったが、参加した学生からは英語での質問が活発になされた。その土地の特徴を知って、医療に活かすという地域医療のあり方をケニアでも垣間見ることができた。

第6回 地域医療セミナー
益田赤十字病院 研修医 遠藤智宏先生企画

【テーマ】働きながら、救急診療の基本を学ぼう！

「みんなでABCDEアプローチを学ぶ」

【日時】令和7年10月17日(金)18:00~19:30

【講師】広島大学救急集中治療医学

三谷 雄己 先生

【参加者】35名(研修医15名 医学生14名)

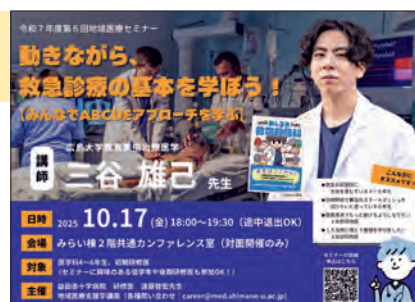
【概要】今回のセミナーは、益田赤十字病院で研修中の遠藤智宏先生の企画で、「みんなの救命救急科」の著者である三谷雄己先生をお迎えし開催した。

救急診療の基本であるABCDEアプローチについて、クイズを交えた講義と、9グループに分かれて救急蘇生用マネキンを使い実践的演習が行われた。

参加者は互いに声を掛け合い、実際の救急現場を想定した動きを交え、知識と技術の両面から学ぶことができた。また、学生からも活発に発言があり、会場は終始活気に満ちていた。

初期対応の流れを身体で覚える貴重な機会となり、「実践的で理解しやすかった」「ゲーム感覚で学べて楽しかった」「自信がついた」といった感想が参加者から寄せられた。

本セミナーを通じて、地域医療の現場で求められる救急対応力の重要性を改めて実感することができ、非常に有意義な学びの場となった。



令和7年度 第7回 地域医療セミナー

【テーマ】求められる医療の形に応じて変化を続ける総合診療

【日時】令和7年12月15日(月)18:00～19:00

【講師】気仙沼市立病院附属本吉医院

院長 齊藤 稔哲 先生

【参加者】28名(学生17名)

【概要】今回先生には、上記のテーマでお話いただいた。「医療技術が高度化する一方、地域医療の現場では高齢化の進行や複数の疾患を有する患者への包括的かつ継続的な対応が重要な課題」と話された。

講演では自己紹介に続き、総合診療医は大学病院では診断学を担い、地域では保健活動、急性期、慢性期、終末期医療まで幅広く担う医師であると説明された。その後、先生自身の体験例をもとに、地域のニーズに応じて医療の形が変化し続けてきた実践が具体的に紹介された。本セミナーは、医学生・大学院生に対し、地域に根ざした医師として果たすべき役割や視点を示す内容であり、将来の進路や医師像を考える上でも有意義な学びの機会となった。



② キャリアセミナー

第1回 キャリアセミナー

【テーマ】「臨床医にとっての研究の魅力」～海外留学の醍醐味～

【日時】令和7年4月14日(月)12:10～12:40

【講師】島根大学医学部 腎臓内科

准教授 吉野 純 先生

【参加者】29名(学生17名)

【概要】先生は慶應大学卒業後、腎臓内科で臨床と研究の道を行んでこられた。講演では「臨床と研究の両輪」の重要性を語られ、研究の魅力は「未来の患者を救う可能性」にあると強調された。

研究テーマは「老化」で、百寿者の多い島根県を例に、加齢に伴う慢性腎不全と健康 寿命の延伸に向けた取り組みを紹介された。「寿命・老化」のメカニズムを解明し、それに基づく予防・治療法の開発を目指しておられる。

大学院修了後は、14年にわたり米国で研究に打ち込み、現地で独立して研究室も運営された。海外研究の魅力として、最先端技術へのアクセス、自由な研究環境、そして多様な文化との体験を通じた視野の拡大を挙げ、研究者としての成長を実感できると熱く語られた。

先生の多岐にわたる経験に裏打ちされた講演は、学生達に実践と探究の重要性を実感させ、進路選択への視野を広げる貴重な機会となった。



第2回 キャリアセミナー

【テーマ】「産婦人科の魅力と実際」

【日時】令和7年5月14日(水)12:10～12:40

【講師】島根大学医学部 産婦人科

助教 野々村 由紀 先生

【参加者】28名(学生16名)

【概要】先生は埼玉県出身で、縁あって島根大学に入学された。学生時代には勉学はもちろんの事、部活動や遊びにと充実した日々を過ごされたそうである。

卒後の研修先は悩んだ末、島根県に残ることを決め、島根大学医学部附属病院と市中病院のたすき掛けプログラムを選択された。それぞれの病院の良さを感じることができたと話された。診療科選択では多角的に比較し、女性の一生に寄り添えること、出産の「ありがとう」の言葉と喜びを共有できることに魅力を感じて産婦人科を選ばれたそうである。

現在は専門医資格を取得され、育児に奮闘中である。先生の等身大の体験談は学生にとって将来を描く上で大いに参考となる、有意義なセミナーであった。



第3回 キャリアセミナー

【テーマ】「とある女医の選択と現在」

【日時】令和7年6月12日(木)12:10~12:40

【講師】島根大学医学部 泌尿器科
助教 小池 千明 先生

【参加者】34名(学生26名)

【概要】先生は当大学を卒業後、2010年に泌尿器科へ入局され、2015年に専門医を取得。同年に第一子を出産され、現在は4児の母でもある。当初は内科を志望されたが、研修医1年目に指導医から外科的思考が向いていると助言を受けられたそうである。先生は、腎臓への興味や手術の多様性、ライフステージに応じた柔軟な働き方ができる点に魅力を感じ、泌尿器科を選択された。泌尿器科は診療領域が広く、外来・手術・処置を通じ一貫して診療できる事にやりがいを感じていると語られた。

ご夫婦とも医師であるが、育児と仕事の両立に工夫を重ね、現在の働き方に後悔はないと話された。職場や家族の支えに感謝しつつ、自分にしかできないライフスタイルを確立してキャリアを積み重ねている姿が印象的であった。



第4回 キャリアセミナー

【テーマ】「医師になる君たちへ伝えたいこと」

【日時】令和7年7月22日(火)12:10~12:40

【講師】島根大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター
センター長 大嶋 直樹 先生

【参加者】23名(学生9名)

【概要】先生は卒業後に消化器内科に入局。当時はまだ地域枠制度は存在しなかったが、40名以上の同期が母校に残り、大学全体に母校を盛り上げようという強い雰囲気が感じられたそうである。

その後、県内外での診療や研究を通じて専門性を高められ、炎症性腸疾患の分野では難病研究班の一員としても活躍された。さらに、ご家族と共に渡米し、免疫の研究に従事され、研究成果のみならず、家族と過ごしたその時間自体が、先生の人生観を大きく変える経験になったと振り返られていた。帰国後は地域医療支援センターで若手医師の支援に尽力され、「内科プロジェクト」を立ち上げ、内科医の育成にも大きく貢献されている。

最後に先生は、「どんな未来が訪れても生き残れる実力を身につけ、選択肢を広げておくこと。そして、誇りを持って母校や島根の医療に貢献して欲しい」と、力強いメッセージを頂いた。



第5回 キャリアセミナー

【テーマ】人との出会いを大切に。私が考える小児科・新生児科の魅力

【日時】令和7年9月22日(月)12:10～12:40

【講師】島根大学医学部 総合周産期母子医療センター

助教 山本 慧 先生

【参加者】19名(学生9名)

【概要】「多くの出会いに支えられ成長できた」と語る山本先生は、幼少期に近所の開業医に憧れて小児科医を志し島根大学に入学された。その後、ご指導いただいた小児科医の人柄と熱意に惹かれ、卒業後は島根で小児科医になると決意されたそうである。

研修医時代、NICUで懸命に生きる赤ちゃんの姿に胸を打たれ、新生児医療の道を選ばれた。埼玉医科大学総合医療センターでは経験豊富な指導医のもとで年間900例近い症例に携わり、現在も動脈管開存症の研究に取り組んでおられる。

最後に未熟児で出生した児の家族から贈られた動画が紹介されると、会場は感動に包まれた。先生は、「小児科は新生児から中学生まで幅広く、多様な専門性を発揮できる魅力ある分野。特に早産児や染色体異常児の命を救い、家族とともに成長の喜びを分かち合えることがやりがい」と話された。



第6回 キャリアセミナー

【テーマ】島根生まれ島根育ちの脳神経外科医 ～これまでと、これから～

【日時】令和7年10月7日(火)12:10～12:40

【講師】島根大学医学部 脳神経外科講座

講師 吉金 努 先生

【参加者】59名(学生41名)

【概要】セミナーは「もともと臨床医になるつもりはなかった」「人生は一度きり。好きなことをしていきたいという想いはあった」という衝撃的な言葉から始まった。

吉金先生は臨床実習で小児科や脳血管障害の患者と向き合った経験から、人の命に関わる医療の重みを知り、脳神経外科の精密さと責任の大きさに強く惹かれたそうである。

島根の医療に貢献したいと語る先生は、島根県を“高齢化が進む日本の20年後の姿”と表現され、この地で医療を学ぶことに意義があると語られた。また「勤勉であること、真摯に学ぶこと、手術を安全・確実に行うこと」という師匠の教えを軸に、技術と思いを次世代へ継ぐ責務を述べられた。

最後に、「期待してくれる人の思いを胸に、『これは』と思ったら信じ続けてほしい。それがあなたの力になる」と力強いメッセージを贈られた。



第7回 キャリアセミナー

【テーマ】「日常から考えるキャリアのヒント」

【日 時】令和7年11月12日(水)12:10～12:40

【講 師】島根大学医学部 放射線科
医科医員 河原 愛子 先生

【参加者】15名(学生10名)

【概 要】先生は島根県立中央病院で初期研修を行い、診療科選択では内科と放射線科で迷ったものの、全身を横断的に診られ、診断と治療の双方に関われる点に魅力を感じ、放射線科を選択された。放射線科は、学んだ内容が日々の診断に直結する分野であり、正しい診断が治療へつながる瞬間に大きなやりがいを感じると語られた。

講演では、緊急IVRにより症状が改善した救急症例や、MRI所見の疑問が新たな知見につながった症例が紹介された。また、北米放射線学会学術集会2024(RSNA2024)では、水痘・帯状疱疹ウイルス感染の神経学的合併症を整理した教育展示が高く評価され、「Certificate of Merit」を受賞されたことにも触れられた。

さらに、子育てと仕事の両立についても言及され、周囲の協力と日々の工夫の大切さが述べられた。

最後に、島根だからこそ経験できた症例が研究や自身の成長につながったと振り返り、放射線科の魅力を力強く語られた。



第8回 キャリアセミナー

【テーマ】基礎医学研究と教育がもたらしたキャリアの広がり:私の場合

【日 時】令和7年12月17日(水)12:10～12:40

【講 師】島根大学医学部 生理学講座(環境生理学)
教授 岸 博子 先生

【参加者】16名(学生9名)

【概 要】先生が医師の道を志されたのは、親族の影響に加え、医師・研究者の伝記を通して芽生えた知的好奇心が原点にあるそうである。内科に進んだ後、専門として呼吸器を選択された。臨床ではCOPDの診療に携わる中で呼吸器生理への関心が高まり、気管平滑筋の研究に取り組まれるようになった。学位取得後、アメリカへ留学し米国国立衛生研究所でポスドク研究員としてミオシン研究を行われた。日本に帰国後は山口大学で20年以上にわたる在籍期間中、基礎研究と学生教育に力を注ぎ、日本の生理学者とのネットワークを築き、研究の展開へとつながられた。

医師になった当初は臨床医を続けるつもりであったが、「好きなこと」を追求し続けた結果、自然と道が拓けていったと言われた。医師としてのキャリアは多様で、先生の歩みからは、知的好奇心に従うことの大切さを教示いただいた。



第9回 キャリアセミナー

【テーマ】耳鼻科医がちょこっと海外に行って学んだこと

【日時】令和8年1月13日(火)12:10～12:40

【講師】島根大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

講師 金井 理絵 先生

【参加者】32名(学生19名)

【概要】先生は大学卒業後、耳鼻咽喉科に入局し、耳科学を専門に診療・研究に従事されてきた。医師としてのキャリアに大きな影響を与えた経験として、海外留学や国際学会への参加を挙げられた。イタリアへの留学は日本では経験する機会の少ない聴神経腫瘍の手術を数多く見学された。現地の手術はダイナミックであり、その経験を通して日本の手術の丁寧さを改めて実感したそうである。病院では多国籍の留学生と充実した研修を行う一方、日常生活では言語や文化の違いに苦労する場面もあった。しかし、「日本の常識は世界の常識ではない」という言葉をきっかけに意識が変化し、異文化を前向きに受け入れられるようになったと語られた。

また、国際学会への参加は新しい知見の獲得だけでなく、大きな刺激やリフレッシュにもなり、まずは挑戦してみることの重要性を強調された。



第10回 キャリアセミナー

【テーマ】「治る脳神経内科と、治せる脳神経内科医を目指して」

【日時】令和8年2月20日(金)12:10～12:40

【講師】島根大学医学部附属病院 高度脳卒中センター

助教 有竹 洵 先生

【参加者】32名(学生16名)

【概要】先生は、かつては天文学者を志されたが、次第に医療の道に強く惹かれ医学部へ進まれた。学生時代は勉学に励む一方、部活動や友人と旅行も楽しみ、幅広い経験を積まれた。初期研修では視野を広げたいとの思いから兵庫県へ赴き、多くの仲間と出会い大きな刺激を受けたそうである。

その後島根に戻り、学生時代の実習で脳神経内科に強い魅力を感じたことや、家族や友人にゆかりがあったことも後押しとなり、脳神経内科に入局された。脳神経疾患の多い病院での研修中に神経免疫疾患の患者を担当した経験を契機に同分野を専門とし、現在は山陰唯一の神経免疫診療認定医として診療に尽力している。毎年のように新薬が登場する中、患者一人ひとりに最適な治療を模索しながら、「治せる脳神経内科医」の実現を目指し研鑽を重ねておられる。



③ 島根県公衆衛生系専門職と学生・研修医の交流勉強会

島根県では、県庁や保健所の医師、保健師等の保健専門職が、自身の業務や最近のトピックスをテーマに学生向けの勉強会を毎月開催しています。地域包括ケアシステムやがん対策など内容も幅広く、県の公衆衛生(看護)の活動について「知る」「話す」「繋がる」機会となるよう企画しています。開催は、奇数月第3水曜日18:45開始～、偶数月第3土曜日9:00～の1時間です。オンライン(Zoom)開催ですが、月によって対面開催とし、交流会も企画していきます。

公衆衛生は、全ての人の生命や生活を守るやりがいのある仕事です。きっと知識やネットワーク、そしてキャリアが広がる機会になりますので、ぜひご参加ください。



島根県公衆衛生系専門職と学生・研修医の交流勉強会

日	時間	内容	講師	出席者(学生)
4月19日	9:00 10:30	雲南圏域の未来を考える	雲南保健所 地域包括ケアスタッフ 細木 淳之介	14(4)
5月20日	17:00 18:00	ともに防ぐ がん対策	島根県健康推進課 がん 対策推進室 主任保健師 川岡 和也	40(12)
6月21日	9:00 10:30	地域の健康を守る ～感染症に負けない地域づくり～	島根県薬事衛生課 主任保健師 川瀬 春香	10(5)
7月16日	18:00 19:00	知ったク!行政医療職のプラス/マイナス	島根県医療政策課 医療専門員 石倉 凱	13(6)
9月24日	18:30 20:00	地域医療から始まった 公衆衛生医師のキャリアの1例	島根大学医学部環境健康 保健医学講座 准教授 定金 敦子	5(2)
10月18日	9:00 11:00	地域で支えるために、まず見つめる ～入退院者の現状から考える 保健所の支援のかたち～	島根県益田保健所 健康増進課 保健師 小村 あずさ	11(5)
12月20日	9:00 11:00	児相保健師の立場から見た 健康教育・プレコンセプションケアの大切さ	島根県出雲児童相談所 主任保健師 二川 陽菜	5(0)
1月21日	18:45 20:00	島根県の難病支援最前線 ～個別支援から施策化まで～	しまね難病相談支援センター難病 診療連携コーディネーター(保健師) 須山 和子	6(1)
2月27日	18:00 19:00	35歳で保健所長になった話 ～保健所長の仕事の実際～	県央保健所 所長 藤井 俊吾	10(2)

④ ビデオセミナー

学生の学習機会の拡大と、職員の医学知識の向上（ブラッシュアップ）を目的とし、毎週火曜日の12時から30分程度、地域医療支援学講座スタッフルームにてDVDの上映会を実施している。なお、令和7年度は医療ドラマや医療映画を中心とした作品を上映した。

令和7年度ビデオセミナーリスト

上映日	タイトル	DVD	講師／原作・監督・脚本
4月22日	第1回 医療映画①	ディア・ファミリー	原作：清武 英利 「アトムの心臓 『ディア・ファミリー』 23年間の記録」 (文春文庫) 監督：月川 翔 脚本：林 民夫
5月13日	第2回 医療映画②		
5月20日	第3回 医療映画③		
5月27日	第4回 医療映画④		
6月3日	第1回 地域医療ドラマ「美しい南の島から、心温まる感動物語」	Dr.コトー診療所	原作：山田 貴敏 『Dr.コトー診療所』 (小学館) 脚本：吉田 紀子
6月10日	第2回 地域医療ドラマ「故郷で暮らす母へ」		
6月17日	第3回 地域医療ドラマ「赤ちゃんを助けて」		
6月24日	第4回 地域医療ドラマ「病気を診るな、人を診ろ」		
7月1日	第5回 地域医療ドラマ「手術で治せない病」		
7月8日	第6回 地域医療ドラマ「愛するわが子へ」		
7月15日	第7回 地域医療ドラマ「巣立ち」		
7月22日	第8回 地域医療ドラマ「救えない命」		
7月29日	第9回 地域医療ドラマ「暴かれた過去」		
9月2日	第10回 地域医療ドラマ「この島を出て行け」		
9月9日	第11回 地域医療ドラマ「新たな旅立ち」		
9月16日	第1回 地域医療ドラマDr.コトー診療所番外編前編①	Dr.コトー診療所 2004	原作：山田 貴敏 『Dr.コトー診療所』 (小学館) 脚本：吉田 紀子
9月30日	第2回 地域医療ドラマDr.コトー診療所番外編前編②		
10月7日	第3回 地域医療ドラマDr.コトー診療所番外編前編③		
10月14日	第4回 地域医療ドラマDr.コトー診療所番外編後編①		
10月21日	第5回 地域医療ドラマDr.コトー診療所番外編後編②		
10月28日	第6回 地域医療ドラマDr.コトー診療所番外編後編③		

上映日	タイトル	DVD	講師／原作・監督・脚本
11月4日	第1回 医療映画①	パッチ・アダムス	監督:トム・シャドヤック 脚本:スティーブ・オーデカーク 原作:ハンター・ドハーティ・アダムス with マーリヤン・ミランダ 制作総指揮:マーシャ・ガーセス・ ウィリアムス/ トム・シャドヤック
11月11日	第2回 医療映画②		
11月18日	第3回 医療映画③		
11月25日	第4回 医療映画④		
12月2日	第1回 医療映画①	神様のカルテ	監督:深川 栄洋 原作:夏川 草介 「神様のカルテ」 (小学館文庫) 脚本:後藤 法子
12月9日	第2回 医療映画②		
12月16日	第3回 医療映画③		
12月23日	第4回 医療映画④		
1月6日	第1回 認知症の真実 自分と家族のために知っておきたいこと前編	認知症の真実	講師:長田 久雄 (桜美林大学大学院 老年学研究科 教授)
1月13日	第2回 認知症の真実 自分と家族のために知っておきたいこと後編		
1月20日	第1回 ドキュメント認知症 家族たちの苦悩と愛前編	ドキュメント認知症	講師:長田 久雄 (桜美林大学大学院 老年学研究科 教授)
1月27日	第2回 ドキュメント認知症 家族たちの苦悩と愛後編		
2月3日	第1回 医療映画①	ツレが うつになりまして。	原作:細川 貂々 「ツレがうつになりまして。」 「その後 ツレがうつになりまして。」 (幻冬舎文庫) 脚本:森岡 利行
2月10日	第2回 医療映画②		
2月17日	第3回 医療映画③		
2月24日	第4回 医療映画④		

(5) キャリアガイダンス(キャリア形成プログラム)

■1年生

- 【日 時】令和7年5月12日(月)17:00～18:00
 【場 所】島根大学医学部 講義棟L3教室
 【主 催】一般社団法人しまね地域医療支援センター
 【参加者】学生16名



【概 要】地域枠等特別選抜枠の新入生を対象に佐野教授から「医師になるまでの流れー入門編」として6年間のカリキュラム、臨床・専門医研修、留年、臨床実習等について説明があり、続いて幸村事務局長から、キャリア形成プログラムについて説明が行われた。

その後、専攻医1年目で病理診断科の床並亜有子先生から「病理は画像や検査結果といった無機質な情報をもとに、言葉を尽くして診断を導き出す分野で、医師同士の丁寧なコミュニケーションが大切である。診断精度の向上は、治療の質を高め、島根県全体の医療レベルを上げる。」また、「地域枠の学生として進むべき道に迷う事もあるが、視野を狭めず様々な可能性に挑戦し、自分が心身共に健やかで学び続けて欲しい。」とエールを贈られた。

■5年生

- 【日 時】令和8年3月24日(火)17:30～18:20
 【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟2階共通カンファレンス室I
 【主 催】一般社団法人しまね地域医療支援センター
 【参加者】11名予定

(6) 学生個別面談

地域枠等及び奨学金受給の学生に対して、個別面談を実施している。学年担当教官がそれぞれ分担して、年1回の定期的な面談ならびに必要なに応じて不定期に面談を行っている。

生活状況、学習状況など把握するとともに、相談や必要に応じて指導を行っている。
 令和7年度面談実施者のべ数:139名(3月31日時点)

令和7年度地域枠等学生数

		学生						学生計
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
地域枠	一般	7	6	5	8	6	4	36
	学士	0	0	0	0	1	2	3
緊急医師確保対策枠		5	7	4	8	8	8	40
県内定着枠		7	9	7	2	6	6	37
地域枠等合計		19	22	16	18	21	20	116
奨学金のみ		0	0	0	1	1	0	2
奨学金のみを含めた合計		19	22	16	19	22	20	118

⑦ サークル活動支援

当講座では地域医療に関連したサークル活動の応援・支援を行っている。

■地域医療研究会 医療機関実習

No.	場 所	期 間	人数
1	波佐診療所	令和7年8月23日～8月27日	4名
2	波佐診療所(さざんか祭り)	令和7年11月1日～11月2日	12名
3	波佐診療所	令和8年2月19日～2月20日	3名



⑧ 個人活動支援

■学生企画×地域医療セミナー特別編1

【テーマ】日本と海外の医学教育の違い

コロンビアから日本、そしてアフリカへ

【日 時】令和7年6月16日(月)18:00～19:00

【講 師】EVOL-GAMMA 形岡 洋光 先生

【参加者】27名(学生14名)



■学生企画×地域医療セミナー特別編2

【テーマ】Where the World Meets the Self-global health education and transformation through a Kenyan Context

【日 時】令和7年7月14日(月)18:00～19:00

【講 師】浜松医科大学医学部医学科 総合人間科学講座
特任講師 Mr. Michael Boyce, M. A, EdD candidate

【参加者】30名(学生15名)



⑨ 感染制御部との共催企画

【テーマ】感染症診療の原則

【日時】令和8年1月19日(月)18:00~19:30

【場所】島根大学医学部附属病院

みらい棟4階 ギャラクシー

【講師】青木 眞 先生

【主催】島根大学医学部附属病院 感染制御部

島根大学医学部 地域医療支援学講座

【概要】先生は感染症学の第一線で長年にわたり臨床および教育に携わってこられた。著書の『レジデントのための感染症診療マニュアル』(医学書院)はレジデントや若手医師にとって感染症診療の標準的教科書として広く用いられている。

今回の講演では、感染症診療を体系的に捉えるための枠組みとして、「臓器・解剖」「原因微生物」「感染症治療薬」「感染症の趨勢および治療効果の判定」という4つの軸が提示された。これらの軸をもとに、症状や検査結果をどのように整理し、診断・治療へと結びつけていくのかについて、豊富な臨床経験に基づく具体的な症例を交えながら解説がなされた。



⑩ 医師のキャリア支援

しまね地域医療支援センターと連携しながら、医師のキャリア支援を行っている。当講座教授がしまね地域医療支援センターの理事、専任医師を務め、その運営にも積極的に関わっている。地域枠等卒業医師及び奨学金受給医師等の対象医師に対して、個人面談を行いキャリアプランの作成支援を行うとともに、しまね研修ナビなどにも積極的に関わっている。

また、しまね地域医療支援センターから委託を受け、総合診療医育成ネットワーク事業、ワークライフバランス支援を行っている（これについては別項で掲載する）。

		医 師					医師計
		1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目 以 降	
地域枠	(一般)	10	12	9	10	56	97
	奨学金なし(再掲)		2	2		10	14
	(学士)	2				2	4
	奨学金なし(再掲)	1					1
緊急医師確保		3	5	5	8	31	52
奨学金なし(再掲)						1	1
県内定着		4	7	10	9	23	53
奨学金なし(再掲)				1	2	2	5
地域枠等合計		19	24	24	27	112	206
奨学金なし(再掲)		1	2	3	2	13	21
奨学金のみ		7	6	6	9	45	73
奨学金のみを含めた合計		26	30	30	36	157	279
奨学金なし(再掲)		1	2	3	2	13	21

3 教育FD

■島根県病院の魅力化計画研究助成事業

【テーマ】「スタッフが離職しない病院の作り方」

【日時】令和7年11月7日(金)18:00~19:30

【講師】株式会社World Life Mapping代表
シビリンク研究プロジェクト リーダー
医療組織健康マネジメント協会
副理事長 下田 彬 先生

【参加者】74名(大学院生4名)

【概要】医療現場ではノンテクニカルスキルの重要性が高まっており、個々が専門性を発揮する「チーム・オブ・エキスパート」と、互いを補完し合い成果を最大化する「エキスパートチーム」の違いが示された。そして先生は、特に後者を育成する組織運営の必要性を強調された。

次に参加者同士「大切な人に勧めたい職場とは何か」等グループワークを行い、活発に意見交換し学びを深めることができた。

また、管理職がスタッフの幸福度を軽視すると離職が増えることや、退職には人間関係や教育体制、勤務負担、新人フォローなど複数要因が関与することが議論された。さらに、情報伝達の滞りは組織機能を低下させるため、管理職には状況認識と適切なコミュニケーションが求められると指摘された。スタッフの心理的安全性向上には無条件肯定や建設的対話を増やし、否定的ストロークを抑える姿勢が重要とされた。



■地域医療教育を考える

【テーマ】「公衆衛生とは何か?を解っているつもりで本当はよくわからない人が聞くFD」

【日時】令和8年1月30日(金)18:00~19:30

【場所】島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー

【講師】自治医科大学 地域医療学センター 公衆衛生部門
教授 阿江 竜介先生

【参加者】19名(学生5名)

【概要】今回、地域医療および医学教育に携わる教職員が、公衆衛生を学生にどのように伝えるべきかを再考することを目的として、阿江竜介先生を講師にお招きし、ご講演をいただいた。

講演では、公衆衛生を「公衆の生命・生活・生きる権利を守る理念」と位置づけ、保健・医療・福祉・介護はその理念を実現するための手段であることを歴史的背景とともに話された。また、我が国における保健所制度の成立と変遷を通して、社会状況や疾病構造の変化に応じて公衆衛生の役割がどのように変化してきたのか、具体的に解説された。

参加者からは、これまで断片的に教授してきた内容を体系的に整理する視点を得たとの声が多く聞かれ、教育内容の見直しをする上で、非常に有意義な機会となった。



④ 地域医療交流サロンの取り組み

① 地域医療交流サロン・みらいラウンジ

みらい棟1階「みらいラウンジ」、みらい棟2階「地域医療交流サロン」は、地域枠等推薦入学学生と行政・医療機関との交流や当講座教員との面談、学生向けセミナーの会場、地域医療関係のサークル活動、学生たちの学習場所など、様々な用途で活用されている。

学生と地域行政担当者・医療機関関係者と顔の見える関係を作るだけでなく、地域医療へのモチベーション維持にも繋がっている。



1階 みらいラウンジ



2階 地域医療交流サロン

② 図書・DVDの貸し出し事業

みらい棟1階「みらいラウンジ」には、県内の行政・医療機関の広報誌を掲示している。みらい棟2階「地域医療交流サロン」には、学会誌や島根大学関連情報誌に加え、地域医療・公衆衛生・統計学等に関する図書や、医療系DVD、論文や新聞がまとめられた雑誌など、多種多様な蔵書がある。また、希望者には貸し出しもおこなっている。

【令和7年度貸出総数】書籍：7冊、DVD：1冊

③ 令和7年度地域枠等特別選抜枠新入生説明会・意見交換会

【日 時】令和7年4月2日(水)18:00～19:30

【場 所】島根大学医学部講義棟1階国際交流ラウンジ

【参加者】55名(新入生19名、在学生9名)

【概 要】地域枠等特別選抜枠新入生19名を迎え、石原医学部長、椎名病院長、島根県の周山健康福祉部長のご臨席のもと開催した。石原医学部長は「多くの人が支えている、安心して学んでほしい」と述べられ、椎名病院長は「笑顔で挨拶し、支え合う姿勢が大切。努力は無駄にならない」と励まされた。周山部長からは「地域医療を支える人材として活躍を期待している」と激励があった。

新入生の自己紹介では「島根県に関心を持ち、地域医療に貢献したい」という声が多く聞かれ、強い意欲が感じられた。また、先輩学生や関係者から「友人を作り、コミュニケーション能力を培う事が大事」と自身の経験に基づいたエールが贈られた。

後半には、島根県にちなんだクイズを行い、上位入賞者には景品が贈られ、会場は大いに盛り上がった。

この会を通じて、新入生たちは地域医療への思いを一層深め、これからの学びや成長に向けて力強く一歩を踏み出した。今後の学生生活が実り多きものとなることを心から期待している。



④ 地域枠等特別選抜枠新入生島根県庁表敬訪問

【日 時】令和7年8月27日(水)11:20～11:40

【場 所】島根県庁6階大講堂

【参加者】島根大学学生14名 鳥取大学学生3名 島根大学教員4名

【概 要】令和7年度に入学した島根県医学生地域医療奨学金貸与学生17名が、島根県の医療に対する関心と使命感をさらに高めることを目的に、丸山達也島根県知事を表敬訪問した。

医学生代表4名が、「生まれ育った島根で患者や家族の思いに寄り添える医師を目指し、責任と誇りを持って学業に取り組む」と力強く決意を表明し、日頃からの温かい支援に感謝の言葉を述べた。

これに対し丸山知事からは「島根の地域医療を支える医師として活躍を期待している。勉学に励み、多様な人々との交流や課外活動も積極的に楽しみ、有意義な学生生活を送ってほしい」と励ましの言葉を送られた。

最後に知事と学生が個々で写真撮影を行い知事の名刺を頂くなど和やかな交流の時間が持たれた。学生達にとって、知事を身近に感じる貴重な体験となった。





島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

⑤ 松江生協病院・松江赤十字病院・松江市立病院見学

【日 時】令和7年8月28日(水)13:15～15:50

【参加者】島根大学学生14名 鳥取大学学生3名 島根大学教員4名

【概 要】令和7年度入学の島根大学・鳥取大学の島根県医学生地域医療奨学金貸与学生17名が、松江市内3病院を巡るバスツアーに参加した。

松江生協病院では、実際に透析治療の現場を見学し、透析治療の仕組みに強い関心を抱いた学生から「もっと勉強したい」との声が聞かれた。

松江赤十字病院では手術室を見学し、「数年後、自分の手で手術を行っていると思像すると、身が引き締まる思いがした」と、将来の自己を想像し意識が高まった様子であった。

更に、松江市立病院では、現場で働く先輩医師から学生生活や進路に関する話を聞く機会があり、「とても参考になり、これからの自分の将来像をより具体的に描けた」と感想が寄せられた。

病院見学を通して、最新の医療技術や地域に求められる医療の現場を肌で感じ、学生達は大きな刺激を受け、学ぶ意欲と医師となる志を新たにした。





松江赤十字病院



松江市立病院



鳥根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

⑥ 学生と行政・医療機関との交流

地域から推薦を受けて入学した学生の地域への貢献等モチベーションを維持向上させるための取組みである。県内の行政・医療機関が企画立案し、当講座の教員も参加している。

■ とうつ地域医療交流会2025

【実施日】令和7年8月23日(土)

【出席者】20名(学生4名)



■ 大田市出身医師、医学生と大田市、大田市立病院の交流会

【実施日】令和7年8月25日(月)

【出席者】20名(学生6名)



■ 浜田の医学生を応援する会

【実施日】令和7年10月31日(金)

【出席者】22名(学生9名)



■ 隠岐出身者地域枠医師等との意見交換会

【実施日】令和7年11月13日(木)

【出席者】12名(研修医1名)



■ 雲南市・奥出雲町地域医療交流会

【実施日】令和7年12月12日(金)

【出席者】32名(学生6名)



■ 益田圏域出身の医師と医学生との意見交流会 (益田・吉賀・津和野合同)

【実施日】令和8年1月20日(火)

【出席者】17名(学生3名)



■ 安来市地域医療を守る交流会

【実施日】令和8年2月14日(土)

【参加者】12名(学生5名)

⑦ 学生間、学生と教員等との交流

■地域枠等入学生学年会

《1年生学年会》

【実施日】令和7年6月19日(木)

【出席者】18名(学生14名)



《2年生学年会》

【実施日】令和8年1月21日(水)

【出席者】9名(学生4名)



《6年生学年会》

【実施日】令和7年6月27日(金)

【出席者】9名(学生3名)



《5年生学年会》

【実施日】令和8年1月28日(水)

【出席者】14名(学生9名)



■令和7年度 地域枠等全学年会

【日時】令和7年11月14日(金)18:30～20:30

【場所】出雲ロイヤルホテル「高砂の間」

【参加者】51名(学生34名)

【概要】地域枠等の全学年会が、学生および学内外の関係者が一堂に会して開催された。6年生が実行委員長を務め、国家試験勉強の合間を縫って準備が進められ開催に至った。当日は6年生有志が、学生・来賓者を温かくお迎えしていた。

はじめに、田邊一明副院長より地域医療への期待を込めた激励の挨拶があり、その後、島根県健康福祉部の周山幸弘部長による乾杯のご発声により会が開始された。続いて学生の自己紹介が行われ、和やかな雰囲気の中で会は進行した。各テーブルでは、学生と来賓との交流が活発に行われた。

本会では、縦横のつながりを再確認するとともに、将来地域医療を担う仲間としての意識を高める有意義な機会となった。





地域医療支援等

① 島根大学医学部医学科オープンキャンパス

- 【日 時】令和7年8月2日(土)13:30～16:00
 【場 所】島根大学医学部臨床講義棟 2F ラーニングコモンズ
 しまね地域医療支援センター・地域医療支援学講座コーナー
 【参加者】当日参加者数:284名(高校生159名、保護者125名)
 地域枠入試相談ブース来訪者31名(高校生15名、保護者16名)



② 島根県健康福祉部医師確保対策室・しまね地域医療支援センター・地域医療支援学講座合同勉強会

島根県の地域医療を担う医師の育成・定着を図るために、島根県健康福祉部医師確保対策室としまね地域医療支援センター、及び当講座の3者で勉強会を行った。

【場 所】島根大学医学部附属病院みらい棟1階 みらいラウンジ

【開催日】月1回16:00～17:00

【内 容】年間スケジュール、入学枠・奨学金制度の概要、市町村等地域交流会支援事業キャリア形成プログラム等運用支援事業、専門研修プログラム合同説明会、臨床研修制度、地域交流会支援事業、県内病院の地域実習受け入れ状況、臨床研修マッチング、医学生バスツアー、キャリア形成プログラムの診療科別専門医取得モデル、医師確保計画、専攻医登録状況、医学部入学定員にかかる文科省情報、奨学生の義務履行等

3者会議実施日

回数	実施日	回数	実施日
第1回	4月22日(火)	第7回	10月28日(火)
第2回	5月20日(火)	第8回	11月18日(火)
第3回	6月24日(火)	第9回	12月16日(火)
第4回	7月22日(火)	第10回	1月20日(火)
第5回	8月25日(月)	第11回	2月24日(火)
第6回	9月30日(火)	第12回	3月24日(火)

③ 第16回中四国地域医療フォーラム

【テーマ】「地域で働く若手医師のキャリア形成とライフイベントの両立について」

【日時】令和8年2月7日(土)9:00～15:00

【場所】ホテルかめ福オンプレイス 2階「ロイヤルホール」

【主催】山口大学医学部附属病院医療人育成センター地域医療支援部門／
山口県健康福祉部／山口県地域医療支援センター

【参加者】中四国各県の地域医療に関わる大学関係者、
県行政担当・地域医療支援センター職員、地域卒卒業医師・地域卒学生他

【概要】フォーラムには、島根大学から教員4名・学生3名が参加した。前日にはプレ集会が開催され、中四国の大学がそれぞれの地域医療の取組や課題について意見交換を行い、共通理解を深める機会となった。

本会ではテーマに沿って各大学・県から支援の取組が報告され、学生も交えて議論が行われた。グループ討論では、キャリア形成と家庭・生活との両立を支える上での大学・行政の役割や、学生との認識の違いについて意見が交わされた。学生からは、将来像を具体的に描くためにも、早期から地域医療の現場に触れたいという声が聞かれ、支援を継続・発展させる重要性を改めて実感した。

④ 統計勉強会

講座内において統計勉強会を行った。

【日時】第1回 4月23日(水)11:00～12:00
第2回 5月7日(水)11:00～12:00
第3回 7月2日(水)11:00～12:00
第4回 10月23日(水)11:00～12:00
第5回 1月28日(水)11:00～12:00

⑤ 地域住民活動支援

島根県内の「地域医療を支える住民団体(6団体)」の活動は、地域医療支援学講座も支援を行っております。

【テーマ】地域医療を守り育てる住民活動in隠岐

【日時】令和7年7月12日(土)

【場所】隠岐の島町役場 町民ホール

【内容】〈基調講演I〉

「地域医療と住民活動」

島根県健康福祉部医療統括監 谷口 栄作 先生

〈活動報告〉

益田の医療を守る市民の会、浜田の地域医療を守る会、公立邑智病院を支援する会
島前病院ボランティアの会、隠岐病院絵画ボランティアあかり

〈基調講演II〉

「診療所から、地域に寄り添う医療の実践」

都万診療所所長 森江 祥平 先生

講評 島根大学医学部 地域医療支援学講座 教授 佐野 千明



⑥ メディア出演

■ 島根県政特別番組「謎解きで発見! 松丸君と学ぶ島根の病院薬剤師」

【取 材 日】令和7年9月26日(金)

【放 送 日】令和7年11月8日(土)15:55~16:25

【放 送 局】日本海テレビ

【番組情報】日本海テレビホームページ:<https://www.nkt-tv.co.jp/plan/entry/27420.html>

YouTube「しまねっこCH」:<https://youtu.be/FB0kiui1w1g?si=Dt6SVX1gb8zeu30L>

【概 要】島根県は薬剤師数が全国30位、薬学部進学者は最下位と人材不足が深刻である。

本番組は、チーム医療を支える病院薬剤師の重要性や県の確保策を広く伝えるものである。

この番組に当講座教授の佐野千晶がエキストラとして参加し、地域医療の専門性や県の取り組みを周知する一助を担った。



■ 韓国放送公社による「島根県地域医療実態報告」

【取 材 日】令和7年10月29日(水)

【放 送 日】令和7年12月16日(火)

【放 送 局】KBS(韓国放送公社)

【番組情報】YouTube <https://www.youtube.com/watch?v=uOqJE9HxUiY>

【概 要】韓国放送公社が作成した番組で日本の地域医療医師制度が紹介された。その中で、島根県では奨学金義務履行後も75%の医師が地域に残り従事していることが報告された。それは島根大学医学部の地域枠等特別選抜枠の入試制度や在学から卒後の義務履行までの継続的な支援体制による成果として紹介され、地域医療支援学講座の教授である佐野千晶が取材を受けた。





高大連携活動

① 島根大学×横田高校コラボ授業

横田高校生とのジョイント授業について参加・協力している。

横田高校は高校魅力化プロジェクトとして学校、地域、行政が一体となって魅力ある高校づくりに取り組んでおられる。

目的 ①高大連携事業の一環として、学びの意欲の醸成や相互的な学びの場とする。

②専門的な学びの体験を通し、進学イメージや学習意欲の向上を図る。(横田高校)

③高校生へのアウトプットを通して、大学での学びを一層深める場とする。(島根大学)

④対話的なコミュニケーションによる主体的な学びの場づくり。

■第1回 医療体験

【日時】令和7年10月3日(金)14:45～16:45

【場所】スキルアップセンター

【参加者】25名(高校生14名、大学生6名、医師等5名)

【概要】縫合体験・聴診レクチャーを行った。横田高校生との対談を行い進路相談を受けた。



■第2回 医療体験

【日時】令和8年2月20日(金)14:30～16:30

【場所】看護学科5、6階実習室

【参加者】24名(高校生13名、大学生6名、医師等5名)

【概要】質の高いBLS実習、リハビリについて実習を行った。横田高校生との対談を行った。



② 高校生対象しまねの地域医療セミナー(地域枠等説明会)

地域枠・緊急医師確保枠・県内定着枠に興味のある高校生を対象に入試概要・しまねの地域医療に関するセミナーを開催した

〈次第〉

始めの挨拶

「地域枠制度の説明」

島根大学地域医療支援学講座教授 佐野 千晶

島根大学地域医療支援学講座

島根県健康福祉部医療政策課

「地域医療に携わる医師のお話し」

島根大学医学部 総合医療学講座

大田市立病院 村上 航太郎 先生

「在学生からメッセージ」

医学科学生2名

終わりの挨拶

島根大学地域医療支援学講座教授 佐野 千晶

■第1回

【日 時】令和7年6月7日(土)13:00～15:00

【会 場】島根大学医学部 臨床講義棟1F 臨床小講堂

【参加者】高校生・既卒生57名 保護者 26名

【概 要】医学部進学に関心のある高校生を対象に、地域枠等の入学制度について紹介するセミナーを開催した。

最初に、地域医療支援学講座の佐野教授より、地域枠制度の趣旨や概要について説明を行い、続いて島根県医療政策課の担当者より奨学金制度について説明が行われた。

続いて、地域の医療現場で活躍されている医師より、臨床現場の実例を紹介され、医療現場のリアルを伝える貴重な機会となった。また、現役医学部学生からは、学業に加えて部活動や日常生活について写真を交えながら紹介があり、学生生活のイメージが得られる機会となった。

参加者アンケートでは、「制度についてよく理解できた」「入学後・卒業後がイメージできモチベーションが高まった」「より一層地域医療を支える医師になりたいと思った」など、多くの前向きな声が寄せられ、大好評であった。

今後もこのような機会を通じて、地域枠制度の理解を広げ、島根で共に地域医療を支える未来の医師が一人でも多く育っていくことを願っている。



■第2回

【日 時】令和7年12月13日(土)13:00～15:00

【場 所】島根大学医学部 臨床講義棟2F 臨床大講堂

【参加者】高校生9名 保護者4名

【概 要】セミナーは、大学入学共通テストを控えた時期に開催したが、高校1・2年生およびその保護者が参加し、地域医療入試制度への関心の高さがうかがえた。

はじめに、佐野教授より地域枠制度の概要および本学が求める医師像について説明が行われた。続いて、島根県健康福祉部医療政策課より、地域枠学生を対象とした奨学金制度について説明があった。

また、地域医療の現場で活躍する村上航太朗先生による、医師国家試験問題を取り入れた参加型講演が行われた。さらに、現役医学生2名から大学生活の紹介があり、参加者は入学後の具体的なイメージを持つ機会となった。

終了後のアンケートでは満足度が高く、開催時期も適切との意見が多数寄せられ、本セミナーの有効性が確認された。今後も、島根県における医療人材育成を目的として継続的に実施していく。



③ 進路発見バスツアー

【日 時】令和8年3月4日(水)

【主 催】SAN'INダイバーシティ推進ネットワーク

【共 催】島根大学 医学部 生物資源科学部

【参加者】高校生32名 医学部教員3名

【概 要】理系進路に興味のある高校生を対象とした「進路発見バスツアー」において、医学部紹介を担当した。医師の仕事内容について説明した後、医学部構内の巡回や附属病院の見学を行った。実際に大学や病院の現場を見ることで、高校生たちは将来の進路についてより具体的なイメージを持ち、医学への関心や志望を一層強めたり、新たな視点を得たりする機会になったのではないかと感じられた。



7 広報誌・ホームページ等による情報発信

① 地域医療支援学レター

ニュースレター「We loveちいき」を年3回発行し、PR活動を行っている。島根大学地域枠等推薦入学ならびに奨学金受給の全学生、県内保健所、医療機関、全国の大学の地域医療関連講座等に配布している。

Vol.50



Vol.51



Vol.52



(2) 地域医療支援学レター掲載「リレートーク」

地域医療支援学レター内で「リレートーク」というコーナーを設けている。このたび、Vol.51から企画を刷新した。「院長と卒業生が語る」と題し、院長からのメッセージに加え、島根大学医学部の地域卒を卒業した医師たちが、地域医療の現場でどのように活躍しているかを紹介している。第50回から第52回を掲載する。

Vol.50 リレートーク

リレートーク 第50回

『離島で総合診療を実践してみませんか?』

医学部の皆さんこんにちは。離島は島根県はユネスコ世界ジオパークに認定され、自然豊かな島根県の離島です。また、古くから独自の文化や歴史を有し、人情あふれる人々が生活しています。離島病院は全国でも最も小さい二次医療圏の中核病院として、また島根唯一の総合病院として、24時間体制で急を診ています。離島は、複数の疾患を抱える高齢者が多く、当院では令和2年に立ち上げた総合診療科を中心に、患者さんに寄り添った医療を展開しています。当院の総合診療科は単に複数の診療科をカバーするのではなく、地域を診る医師として、多職種と共に働いていく。在宅医療から地域包括ケアなど、まるごと安心して働ける体制を作っています。昨年に島内5カ所の町立診療所を一元化し、より地域に密着した診療を体験できます。全国各地から医学生や研修医を受け入れると共に、医療DXを活用した高度医療機関の専門医との連携診療や各種カンファレンスなどを通して、総合診療をより深く学べる環境にあります。総合診療医を目指す医学生、研修医にとって、絶好の教育環境にあると思います。ぜひとも、離島病院で、質の高い総合診療を学び、実践してみませんか?

離島広域連立総合病院
院長 徳家 敬夫 先生

離島広域連立総合病院
〒685-0016
島根県離島市
院址 島根県離島市355
Tel: 08512-2-1356
Fax: 08512-2-6749

Vol.51 リレートーク

リレートーク 第51回

院長と卒業生が語る

益田で働く・支える・つなぐ医療

『他科の先生とも仲良くなろう』

当院は島根県では唯一の急性期病院であり、多くの疾患、治療に携わっています。また、日本赤十字社の義務でもありますが災害時におけるDMAT、救護隊の派遣も積極的に行っています。ほとんどの診療科に常勤医がおりますが、力を入れてきた総合診療科は診療範囲が広く、院外、院内を問わず多くの患者さんを診察していただいています。益田医療圏の人口は5万人程度ですが、毎年3千件近い救急車を受け入れており、救急搬送患者における早期診断、診療の経験も積むこともできます。さらに多くの科において学会の研修施設の認定を受けています。また近年では医療DXの進歩に伴い電子処方箋の導入、最新のCTの設置に加えAIによる診断技術の向上などを進めています。小児科病院ではありませんが、院内は風通しがよく、良好です。国協力も強い病院だと自負しています。是非皆さんにも当院の魅力を感じてほしいと思います。

益田赤十字病院
院長 青木 明彦 先生

『益田に帰って12年経ち思うこと』

医学部の皆さん、はじめまして。私は島根大学地域推薦枠1期生で、初期研修2年目から地元益田市の益田赤十字病院で勤務しています。消化器内科は消化管、胆膵、肝臓の3つの分野に大きく分けています。大きな病院ではそれぞれの分野に分かれ専門性を持って治療を行います。当院では一人一人がすべての分野に精通できるよう、各分野の専門医に指導を受けながら、内視鏡手術や超音波下に行う手術など習得します。中核病院として、当院で検査・治療を完了するためにスキルアップし

益田赤十字病院
〒698-8501
島根県益田市金町
〒103-1
Tel: 0856-22-1680(内線)
Fax: 0856-22-3991

Vol.52 リレートーク

リレートーク 第52回

院長と卒業生が語る

この地で生き、この地で診る 大田で育つ、地域医療の力

『新たな船出のお手伝いをしますよ!』

大田市は石見地方の東部に位置し、約5万人の人口を有する医療圏を形成しています。東部には国営公園として最大の観光地とされた三瓶山を、西側にはかつて世界の三分の一の船を出した世界遺産・石見銀山を、北西には鳴り砂で知られる等々力海岸を、自然と歴史に恵まれた地域です。大田市立病院は、地域の中核病院として、一般急性期、感染症、地域包括ケア、回復期リハビリテーションの各機能を備え、229病床を有しています。また、島根大学医学部大田総合医療センターを併設し、総合的な診療能力を備えた医師の育成にも力を注いでいます。院内では各科専門医との垣根が低く、カンファレンスに集約された総合診療で毎朝カンファレンスを実施。院外の一環の支援プロジェクトを用い、新入院患者や課題症例を全医師で共有・検討し、チーム医療の質向上に努めています。医師格差の解消で地域医療は広がりました。救急や入院を担う医療機関が生活圏内にあることは地域にとってとても重要です。命を守る使命を担い、地域の皆さまから信頼される病院として共に働く喜びを、ぜひ私たちと分かち合いませんか。

大田市立病院
院長 山形 真吾 先生

『大田で生ききる』

島根大学医学部の地域枠一期生として学び、現在は地元・大田で総合診療科として働いています。96歳の祖母、両親、夫、子どもたちも暮らす中で、地域の支えや家族、地域の支えを受けながら、医師として生きていくことができています。当院は診療科や職種の垣根が低く、小児科の科(あたためた病院)です。院内には医師のみの研修が受けられ、救急当番や初診入部、診療科での訪問診療、小児科のサポートなど、多様な役割を担うことができています。こうした環境だからこそ、とてもありがたに感じています。

大田市立病院
総合診療科 院長 向田 千夏 先生

大田市立病院
〒694-0043
島根県大田市大田町吉永
N2番地
Tel: 0854-82-0330(内線)
Fax: 0854-84-7749
URL: <http://www.ohda-hp.ohda-jhmc.jp/>

③ ホームページ

HPでは、セミナーのお知らせだけでなく、大学や行政をはじめとする各種機関からの情報提供や、実習に関する資料等も掲載している。



④ Facebook

フォロワー:2002名

医師や研修医など、医療従事者だけでなく、一般の方からも広く登録いただいている。



⑤ Instagram

フォロワー:417名

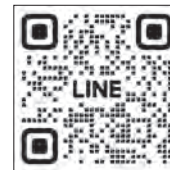
学生向けのセミナー情報や当講座の日常などを投稿している。島根大学の医学生のみならず県内外から多くの方にフォローしていただいている。



⑥ 公式LINE

登録者数:402名

学生面談の日程調整や重要なメッセージをやり取りする際、メールに比べ見落とされることが少ないため、重要なコミュニケーションツールとなっている。



※登録者数・更新数は、令和8年3月時点

⑦ 島大病院ニュース

島根大学医学部附属病院では、医療機関向け情報誌「島大病院ニュース」を発行している。

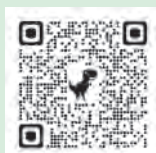
当講座からもコラムを投稿している。

令和7年度投稿分を掲載する。

こちらの投稿をご覧になりたい方は、病院ホームページへアクセスください。
最新の記事が更新されますと、古い記事はバックナンバーへ移行されます。

◆アクセス方法◆

島根大学医学部附属病院
「島大ニュース」で検索
もしくは右の二次元コード
を読み込んでください



8 島根総合診療専門医育成ネットワークの取り組み

① 各医療機関間のネットワークづくり

総合診療専門医育成ネットワーク世話人会及び意見交換会等の開催

- ・世話人会 専攻医のフォロー方法等について
第1回 令和7年5月31日(土)
- ・メール会議 8回 次年度の取り組みについて

② 総合診療医育成のためのプログラム作成・指導体制の整備支援

総合診療専門医育成プログラムの整備状況

令和7年度時点で下記の育成プログラムが整備されている。

■総合診療専門研修プログラム……11プログラム

- ・松江生協病院総合診療専門医研修プログラム
- ・島根大学病院・大田市立病院総合診療専門医コース研修プログラム
- ・島根県立中央病院総合診療専門研修プログラム
- ・出雲市民病院・出雲家庭医療学センター総合診療専門研修プログラム
- ・雲南市立病院総合診療専門研修プログラム
- ・総合診療専門研修 仁寿・川本あいあいプログラム
- ・島根県済生会江津総合病院総合診療専門プログラム
- ・津和野共存病院総合診療専門研修プログラム
- ・出雲徳洲会病院総診プログラム
- ・松江赤十字病院 総合診療専門研修プログラム
- ・益田赤十字病院 総合診療専門研修プログラム



③ 総合診療専門医等の研修と養成

(1)「しまね総合診療の集い」の実施

■第1回

【テーマ】対話からはじまる島根の総合診療

～新専攻医のためのオリエンテーション～

【日 時】令和7年5月31日(土)13:30～17:15

【場 所】島根大学医学部附属病院

みらい棟4階 ギャラクシー

【参加者】31名(学生9名)

【概 要】第1部は新専攻医の自己紹介から始まった。その後、大田市立病院の村上 航太郎先生、島根県立中央病院の松井千佳先生のお二人が登壇され、パネルディスカッションが開催された。

第2部では、雲南市立病院の小原潤也先生、島根県立中央病院の足立元先生および出雲市民病院の上村裕介先生による事例提示が行われ、参加した医学生は真剣な眼差しで聴講していた。その後、活発なディスカッションが繰り広げられ、盛会のうちに幕を閉じた。

今回も多くの方の医学生および医師にご参加いただいた。島根の総合診療のボルテージは高く、その波は今、全国へと広がりつつあると感じている。今後も継続的に行っていきたい。



■第2回

オキフェス2025

しまね総合診療の集い学生参加支援

【日 時】令和7年9月6・7日(土・日)

【場 所】隠岐の島

【参加者】16名(学生6名)

【主 催】隠岐病院 島の医療人育成センター

【報告者】医学科6年 中本 幸乃 さん



令和7年9月6・7日の2日間、オキフェス2025に参加し、地域社会の理解を深める貴重な機会を得ることができました。

特にグループワークでは、安全な出産を実現するための政策や、フィールドワークで得た情報をもとに、隠岐への移住促進策について議論し、多様な意見を交わすことで幅広い視点を養えたと感じています。

また、交流会ではバーベキューや釣りを通じて島民の皆さんと親しく触れ合うことができ、隠岐ならではの温かい人柄や豊かな自然を体感できたことが印象深かったです。

島の魅力を現地で直接感じることで、地域と医療が密接に結びついている現実を実感し、今後の医療活動における「地域との連携」の重要性を改めて認識した機会となりました。

■第3回

ウェスタンカーニバル2025

しまね総合診療の集い学生参加支援

【日 時】令和7年9月13・14日(土・日)

【場 所】独立行政法人国立病院機構
浜田医療センター

【参加者】76名(学生5名)

【報告者】医学科2年 石井 真我 さん

この研修会に参加し、島根県西部の魅力を感じながら、地域医療の現状について深く考える貴重な機会を得た。

1日目は、現地で医療を支えておられる方々の講演を聴き、県西部の医療者不足の課題やそこに込められた思いを共有した。地域の医療を守るために尽力されている方々の熱意に触れ、私自身も将来、医療者として住民の暮らしを支えていく決意を新たにした。

その後の交流会では、BBQや石見神楽の鑑賞を通して地域の医療者や参加学生と語り合い、普段は得られない交流を楽しむことができた。

2日目は、ピアノ演奏を交えた企画の中でアドバンス・ケア・プランニングについて考え、患者や医療者が共により良い「これから」を模索していく姿に深く心を動かされた。

この経験を糧に、今後も地域医療への理解を深め、より良い医療を目指して精進していきたい。



■第4回

【日 時】令和7年11月1日(土)

【場 所】島根大学医学部附属病院
みらい棟4階 ギャラクシー

【参加者】医師 16名(学生4名)

【講 師】済生会江津総合病院

原田 愛子 先生 佐々木 拓志 先生

【概 要】第1部は原田愛子先生、佐々木拓志先生を講師に迎え、済生会江津総合病院の地域医療の実践や抱える課題、地域に根ざした医療の強みについて講演が行われた。続くディスカッションでは、県内各地域の医師、研修医、学生らが活発に意見を交わし、地域医療の現状を共有するとともに、今後の総合診療専門医の方向性や育成の在り方について理解を深めた。

第2部では「総合診療医らしい事例検討」について、吉村菜実先生による学生・初期研修医を対象とした「BPS/PCCM講義」と、専攻医・指導医を対象とした「医学教育講義」が村上航太郎先生によって行われた。その後、若手医師によって提示された事例を専攻医のファシリテートのもとで多角的な検討と振り返りが実施された。

世代を超えた交流から学びが生まれ、今後への期待感を持ちながら閉会した。



■第5回(ブラッシュアップセミナー)

【テーマ】「シン・地域医療と公衆衛生～地域医療と公衆衛生の最接近～」

【日 時】令和8年1月31日(土)10:00～12:00

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー

【講 師】自治医科大学 地域医療学センター 公衆衛生学部門

教授 阿江 竜介 先生

【参加者】26名(学生1名)

【概 要】公衆衛生を「公衆の生命・生活・生きる権利を守ること」と捉える視点が示され、保健・医療・福祉・介護はその考え方を具体的に形にするための手段であるという整理が、特に心に残った。

また、日本における保健所の成立から現在までの歩みを振り返り、戦後の社会状況や疾病構造の変化に応じて、公衆衛生の役割や機能がどのように移り変わったのか、具体的な事例を交えて語られた。

参加者からは日々の地域医療を考える中で、公衆衛生的な視点をあらためて意識するきっかけになったといった感想が寄せられた。



■第6回

【日 時】令和8年2月28日(土)13:30～17:15

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟4階 ギャラクシー

【参加者】19名(学生5名)

【概 要】本会は、医学生・研修医・専攻医が総合診療の実践や考え方への理解を深め、将来のキャリアとして具体的にイメージできることを目的に開催された。

第1部では医学生によるポートフォリオ検討会を実施し、実習で経験した症例をもとに発表を行った。発表後には指導医や参加者とのディスカッションを通して症例を振り返り、総合診療の視点について意見交換を行うことで学びを深めた。

第2部では「総合診療医、究極の選択!」と題し、隠岐病院の森江祥平先生が症例を提示し、臨床現場での意思決定について全体で議論した。多様な視点や考え方が共有され、総合診療の魅力や実践知への理解が深まるとともに、参加者同士の交流も促進され、学びの多い時間となった。



(2) 全国セミナーへの参加(学生の学会等参加支援)

- 【件 名】第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会
- 【日 時】令和7年6月20日(金)～22日(日)
- 【場 所】札幌コンベンションセンター・札幌市産業振興センター
- 【参加者】医学科4年 川上 日輪乃 さん
- 【テーマ】「地域住民に対する栄養・生活習慣アンケート調査結果からの医学生の一考察」
学生セッションにおいてポスター発表

(3) BLS(1次救命処置)講習会の実施

アメリカ心臓協会BLS・ACLS講習会を行った。

- ・BLS 45名受講
- ・ACLS 8名受講

アメリカ心臓協会(Heart Code®)BLSは、オンライン学習パートを修了後、会場での短時間スキルパートを受講することで、プロバイダーカードの取得ができるポストコロナにおける新しい生活様式に沿った次世代型のBLSコースである。

(4) 医療機関・医師会・行政等と連携した総合診療医についての普及啓発

(1) しまね地域医療支援センターとの連携

- 第1回しまね専門研修プログラムWeb説明会 令和7年7月14日(月)～18日(金)
- 第2回しまね専門研修プログラムWeb説明会 令和8年1月26日(月)～30日(金)

(2) 大学との連携

- 大学院コース等の支援
 - 博士課程:①研究者育成コース (昼夜開講制)
 - ②総合診療・地域医療コース (昼夜開講制)
- そ の 他:島根大学病院・大田市立病院総合診療専門医コース

(3) 医療機関との連携

総合診療科に関する医療機関担当者等との打ち合わせ(10件)

⑨ ワークライフバランス

① 教育

(1) ドクターキャリア形成特別講義(キャリア教育)

臨床実習前の医学科4年生対象にした男女共同参画講義(キャリア教育)を島根県医師会と共に、主催している。

【日 時】令和7年11月13日(木)9:40~16:10

【場 所】島根大学医学部 臨床大講堂

【対 象】島根大学医学部医学科4年生

【主 催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

【共 催】日本医師会 島根大学ダイバーシティ推進室
島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

【内 容】① WLB講演ならびにワーク

広島大学医学部附属教育センター 教授 蓮沼 直子 先生

② キャリアモデルの紹介

呼吸器・臨床腫瘍学 学内講師 濱口 愛 先生

小児脳神経疾患治療センター センター長 君和田 友美 先生

内科学講座内科学第一 准教授 野津 雅和 先生

③ 島根大学におけるダイバーシティ推進の取り組み

島根大学副学長 河野 美江 先生

④ 島根県「えんネット」の取り組み

地域医療支援学講座 助教 堀田 優希江

【医師会特別講演】

信州大学 信州がんセンター緩和部門教授 間宮 敬子 先生

「緩和ケア医として生きること」



(2) ワークライフバランス講義

令和7年12月17日(水)に和歌山県立医科大学医学部医学科1年生に対して、医学概論Ⅱの講義を「ワークライフバランスとヘルスプロモーション」と題して教授 佐野がオンラインにて担当した。学生たちは興味を持って聴講していた。

(3) 医師生活密着型実習

医師密着型実習とは、島根でがんばる医師に同行して実習を行い、自分の将来像を探すことを目的にした実習である。今年度は応募がなかったが募集中である。

協力女性医師の所属

- ・出雲徳洲会病院
- ・飯南病院
- ・浜田国保診療所連合体
- ・島根大学医学部附属病院 など

(4) セミナーの開催

■ワークライフバランスセミナー

【日 時】令和7年9月12日(金)18:00~19:00

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟4階ギャラクシー

Zoomを使用したハイブリット形式

【対 象】学生、医療関係者

【主 催】島根大学医学部附属病院地域医療支援学講座

【共 催】島根大学ダイバーシティ推進室

島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

【テーマ】笑い療法で心身のケアを学ぶ

【講 師】笑医塾 塾長・小児外科医 高柳 和江 先生

【参加者】71名(学生7名)

【概 要】参加者一同が待ち望む中、高柳先生が満面の笑みで登壇されると、会場は一瞬で明るい雰囲気に包まれた。

先生は10年間クウェートの国立病院で小児科医として従事された中で、「笑顔が患者や家族に大きな力を与える」ことを実感された。そこで帰国後、“本当の笑い”を広めるため笑い療法士を立ち上げ、不安を抱える多くの人のため尽力された。

講演では、世界で活躍する女性として、コロナ禍において疾病率や死亡率の低減に成功したドイツのメルケル首相を例示し、人々に語り掛け、寄り添う姿勢が大切だと述べられた。また、女性には自己評価を低く見積もる“インポスター症候群”が多いことにも触れ、もっと自信をもって活躍してほしいと力強く語られた。

さらに、2人1組で互いに褒め合うワークも行われ、気恥ずかしくも前向きな言葉を伝え合ううちに、自然と笑顔があふれていた。終始あたたかく前向きな雰囲気で、心が元気になる笑顔と、様々な学びを得られるひと時となった。



(2) 学生との交流

女性医師の働き方、女性医師同士の横のつながりを持つために開催した。
女性医師らと学生とで議論が深まった。

■第1回えんネット交流会

【日 時】令和7年7月7日(月)17:30~18:30

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟1階みらいラウンジ

【参加者】11名(学生7名)

【概 要】今回は多くの学生が参加し、活発な意見交換が行われた。結婚のタイミングや進路に関する相談もあり、医師側は自身の体験や知人のエピソードを交えて丁寧に対応していった。子育て中の学生が赤ちゃん連れで参加する微笑ましい場面もあり、愛らしい赤ちゃんに一同が癒されるひとときがあった。

「いろんなことに挑戦したい」という学生には、先輩医師から留学という選択肢についての話もされた。さらに、趣味を通じて思いがけない新たな交流が生まれるなど、予想以上に多様な関わりが広がる時間となった。

「えんネット交流会」は、立場を越えて気軽に語り合える出会いと交流の場である。今後も“ゆるく”続けていくので、興味のある方には気軽に参加してもらいたい。



■第2回えんネット交流会

【日 時】令和7年12月23日(火)17:30～18:30

【場 所】島根大学医学部附属病院 みらい棟2階共通カンファレンスI

【参加者】6名(研修医1名、学生3名)

【概 要】クリスマス会を兼ねた交流会を開催した。当日は飛び込み参加もあり、終始わいわいと和やかな雰囲気の中で進行した。学生生活の様子や研修内容について、参加者同士がそれぞれの立場から現状を共有した。

1年生から研修医まで幅広い層が集まり、学生生活の様子や研修の現状について和やかに語り合った。特に研修病院については、まだ具体的なイメージを持っていない医学生に対し、研修医が「現場のリアルな声」を共有。先輩たちの話を通じて、学生たちは将来の姿をより鮮明に描けたようであった。

また、生活面や経済面についても意見交換が行われ、奨学金制度等に関する情報提供を行うことができた。「えんネット交流会」は、医師と学生が悩みや現状について、のんびりと気軽に話し合える場であり、今後もこうした温かい繋がりを大切に活動をしていく予定である。



③ 就労支援

(1) 相談窓口

平成26年8月から働き方に不安を抱える方の窓口(えんネット)を設置し、出産・育児後の女性医師等が安心して職場復帰や、現在の働き方に悩みを抱える医師のために個々に応じた復職への相談も受け付けている。復職支援プログラム作成や復職に向けたシミュレーション教育等を支援して、専門に応じた対応が必要な場合は、支援担当員として協力いただく専門科の先生に相談を受けることも可能としている。

相談件数 20件

・相談窓口事業の相談内容

- ①子育てと仕事の両立方法
- ②離職後の段階的なスキルアップについて
- ③異動先の研修施設 院内保育所等 福利厚生 の状況
- ④身体的不調, 精神的不調, ライフイベントに関連した働き方
- ⑤ ライフイベントと奨学金返還免除期間

(2) 復職サポート

職場紹介、雇用についてサポートを行っている。勤務が開始された後は健康面、精神面での定期的なフォローを行っている。

相談実績 2件

(4) 研究

学生のキャリア選択についての研究

研究者：堀田優希江・佐野千晶

医学生のキャリア認識が、こういった生物学的因子、社会的因子、経済的因子、環境因子、教育機会因子と関連しているのかについてキャリア・アンカー理論を応用し、研究している。

医学科1年生と医学科4年生に対してキャリア思考やWLBについてのアンケート調査を行っている。

(5) 広報

(1) えんネットマガジンの発行

特集：手厚いサポートで子育てしながら働きやすい！

公立邑智病院を特集し、副院長の日高武英先生、酒井和久先生、上田愛瑠萌先生、松原瑠南先生、阿部宏哉先生、医学生さんにお話を伺った。

新病院になり、子育て医師を病院全体で支えながら、外来から入院まで病院全体で学びあえる環境を見せていただいた。



(2) えんネットホームページ

キャリア支援・両立支援や学生支援の情報、学生教育について適宜更新している。 <https://www.en-net.jp>



(3) えんネットグッズの作成

えんネットの活動周知のためにグッズを作成し、必要な方に配布しています。
本年度は、ボールペンとメモ帳を作成いたしました。



(6) 託児付セミナー支援

(1) 第2回日本病態栄養学会中国地方会

日時：令和7年(2025)9月15日(月、祝)10:00-16:00

会場：松江テルサ(松江市朝日町)

(2) 染色体異常の方とご家族のためのお話し会Vol.5

日時：令和8年(2026)2月7日(土)14:00-16:15

会場：島根大学医学部看護学科棟6階第4実習室

(3) 第14回第2回島根県糖尿病療養指導士の研修会

日時：令和8年(2026)3月7日(土)・8日(日)

会場：益田赤十字病院 研修棟1階 講堂





業績

ACHIEVEMENTS

【論文】

1. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Kaoru Tanaka, Chiaki Sano, Hidetoshi Hayashi: Peritoneal Metastasis in Non-Small Cell Lung Cancer: A Systematic Review of Clinical Features, Molecular Profiles, Diagnostic Approaches, and Outcomes. Cancer Management and Research 2025 Sep 19;17:2127-2141. doi: 10.2147/CMAR.S542123. eCollection 2025. (IF 2.6)
2. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Kaoru Tanaka, Chiaki Sano, Hidetoshi Hayashi: C-Reactive Protein in Immune Checkpoint Inhibitor-Associated Colitis: A Scoping Review of Evidence and Knowledge Gaps. Cancer Management and Research 2025 Nov 7;17:2631-2641. doi: 10.2147/CMAR.S555819. eCollection 2025. (IF 2.6)
3. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Kaoru Tanaka, Chiaki Sano, Hidetoshi Hayashi: Initial symptoms and diagnostic delay in immune checkpoint inhibitor-related adrenal insufficiency: a systematic review and meta-ethnography of case reports. Frontiers in Endocrinology 2025 Oct 1;16:1636452. doi: 10.3389/fendo.2025.1636452. eCollection 2025. (IF 4.6)
4. Junya Ohara, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Perspectives on Team-Based Care in Family Medicine: A Mixed-Methods Study on Interprofessional Collaboration in a Hospital Setting. (March 28, 2025) Cureus 17(3): e81388. doi:10.7759/cureus.81388
5. Ryoko Yamauchi, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Current Status and Challenges of Diaphragm Pacing in Japan: A Systematic Review of Case Reports. (March 18, 2025) Cureus 17(3): e80776. doi:10.7759/cureus.80776
6. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano: Intervention for the Increase in the Uptake of Pneumococcal Vaccination Among Older Patients: A Systematic Review and Meta-Analysis. (April 20, 2025) Cureus 17(4): e82615. doi:10.7759/cureus.82615
7. Kohei Oka, Natsumi Yamamoto, Shiho Amano, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: Recurrent Dissemination Despite Local Control in a Case of Hypervirulent Klebsiella pneumoniae Liver Abscess: A Case Report. (June 05, 2025) Cureus 17(6): e85438. doi:10.7759/cureus.85438
8. Ryuichi Ohta, Yuta Horinishi, Chiaki Sano, Kunihiro Ichinose: Efficacy of Mycophenolate Mofetil in Treating Skin Fibrosis in Systemic Sclerosis: A Systematic Review and Meta-Analysis. Journal of Clinical Medicine 2025 Jun 12;14(12):4187. doi: 10.3390/jcm14124187. (IF 2.9)

9. Hikaru Murooka, Natsumi Yamamoto, Shiho Amano, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: Idiopathic Retroperitoneal Hematoma Associated With Anticoagulation in a Patient With Moderate COVID-19 Pneumonia: A Case Report. (July 06, 2025) Cureus 17(7): e87395. doi:10.7759/cureus.87395
10. Natsumi Yamamoto, Shiho Amano, Kohei Oka, Chiaki Sano, Ryuichi Ohta: Tracheomalacia and Interstitial Pneumonia in a 95-Year-Old Woman With Undiagnosed Rheumatoid Arthritis: A Case Report. (July 02, 2025) Cureus 17(7): e87205. doi:10.7759/cureus.87205
11. Akiko Yata, Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Yoshiaki Iwashita, Chiaki Sano: Community Nursing Interventions and Their Impact on Health Outcomes: A Systematic Review of International Evidence. (August 07, 2025) Cureus 17(8): e89575. doi:10.7759/cureus.89575
12. Taichi Fujimori, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Acute Abdominal Aortic Occlusion in a COVID-19 Patient Despite Early Anticoagulation: A Case Report. (August 29, 2025) Cureus 17(8): e91263. doi:10.7759/cureus.91263
13. Ryuichi Ohta, Natsumi Yamamoto, Kaoru Tanaka, Chiaki Sano, Hidetoshi Hayashi: Clinical Characteristics and Outcomes of SMARCA4-Mutated or Deficient Malignancies: A Systematic Review of Case Reports and Series. Cancers 2025 Aug 16;17(16):2675. doi: 10.3390/cancers17162675. (IF 4.4)
14. Ryuichi Ohta, Natsumi Yamamoto, Kaoru Tanaka, Chiaki Sano, Hidetoshi Hayashi: Coexistence of Small-Cell Lung Cancer and Gastrointestinal Malignancies: A Narrative Systematic Review of Case Reports. (September 15, 2025) Cureus 17(9): e92393. doi:10.7759/cureus.92393
15. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Chiaki Sano, Kunihiro Ichinose: Integrating Multimorbidity Assessment into Rheumatology Care: Prognostic Role of the Charlson Comorbidity Index in Systemic Lupus Erythematosus. Healthcare 2025, 13(18), 2285; <https://doi.org/10.3390/healthcare13182285> (IF 2.7)
16. Ryuichi Ohta, Kasumi Nishikawa, Kaoru Tanaka, Chiaki Sano, Hidetoshi Hayashi: A Descriptive Summary of Tumor-Associated MUC1 (TA-MUC1) Expression in Epithelial Malignancies: A Systematic Review of Case Reports and Case Series. (October 28, 2025) Cureus 17(10): e95636. doi:10.7759/cureus.95636
17. Ryuichi Ohta, Yoshinori Ryu, Kaoru Tanaka, Chiaki Sano, Kunihiro Ichinose, Hidetoshi

- Hayashi: Paraneoplastic Remitting Seronegative Symmetrical Synovitis With Pitting Edema: A Systematic Review of Case Reports and Observational Studies on Clinical Features, Treatment Response, and Outcomes. (October 08, 2025) *Cureus* 17(10): e94098. doi:10.7759/cureus.94098
18. Ryuichi Ohta, Ryu Yoshinori, Chiaki Sano, Kunihiro Ichinose: Impact of rural residence on clinical outcomes in SLE: a systematic review. *Lupus Science & Medicine* 2025 Oct 7;12 (2):e001725. doi: 10.1136/lupus-2025-001725. (IF 4.0)
19. Kohei Oka, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Clinical Characteristics, Complications, and Outcomes of Hypervirulent *Klebsiella pneumoniae* Liver Abscess: A Systematic Review of 53 Cases. (November 04, 2025) *Cureus* 17(11): e96056. doi:10.7759/cureus.96056
20. Ryuichi Ohta, Taichi Fujimori, Kaoru Tanaka, Chiaki Sano, Hidetoshi Hayashi: The Impact of Exercise on Overall Survival in Patients With Metastatic Colorectal Cancer: A Systematic Review and Meta-Analysis. (November 24, 2025) *Cureus* 17(11): e97682. doi:10.7759/cureus.97682
21. Ryuichi Ohta, Koki Kato, Chiaki Sano: Improving Pneumococcal Vaccination Coverage Among Older Adults in a Rural Hospital: A Plan-Do-Study-Act (PDSA)-Based Quality Improvement Project. (November 20, 2025) *Cureus* 17(11): e97353. doi:10.7759/cureus.97353
22. 齊藤悠里子、松本香奈枝、小池貴之、野津雅和、佐野千晶、山崎修: 甲状腺機能低下症に伴った柑皮症. *皮膚病診療* 47(12) 1096-1099 2025年12月
23. Daichi Yokobori, Taichi Fujimori, Ryuichi Ohta, Chiaki Sano: Abdominal and Back Pain Initially Suspected to Be Transient Intestinal Ischemia in a Case of *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* Bacteremia. (January 07, 2026) *Cureus* 18(1): e101031. doi:10.7759/cureus.101031

【学会発表】

1. 多田納豊、宗像達夫、澤井円香、八木秀樹、佐野千晶：Mycobacterium avium complex由来 D-アミノ酸によるマクロファージの遺伝子発現変動. 日本薬学会第145年会、ポスター、福岡 2025年3月27日（会期 3/26-29 大会長 大嶋孝志）
2. 亀井美穂、石原慎之、岡崎美香、大仁田哲修、高橋由、玉木宏樹、羽田野義郎、佐野千晶、矢野貴久：島根県における抗菌薬の適正使用推進のための取り組みと人材育成の現状と課題. 第73回日本化学療法学会学術集会、ポスター、横浜 2025年5月9日（会期 5/8-10 会長 川名明彦）
3. 馬淵寛也、太田龍一、佐野千晶：医療過疎地域の訪問診療における終末期患者の向精神薬中止. 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、対面 口演、札幌 札幌市産業振興センター 2025年6月21日（会期 6/21-22 大会長 木佐健悟）
4. 堀西祐多、堀西理美、佐野千晶、太田龍一：美容室で交わされる会話と美容スタッフの顧客の健康ニーズに対する気づき. 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、対面 口演、札幌 札幌市産業振興センター 2025年6月21日（会期 6/21-22 大会長 木佐健悟）
5. 阿部香澄、太田龍一、佐野千晶：総合診療科発展に伴う整形外科からの紹介患者の特徴の変化：後ろ向きコホート研究. 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、対面 口演、札幌 札幌市産業振興センター 2025年6月22日（会期 6/21-22 大会長 木佐健悟）
6. 川上日輪乃、佐藤優子、島田直英、堀田優希江、泉妻胡桃、親泊ゆりか、西本沙弥、藤澤舞、森夏美、河村実、佐野千晶：地域住民に対する栄養・生活習慣アンケート調査結果からの医学生の一考察. 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、学生セッション 対面 ポスター、札幌 札幌市産業振興センター 2025年6月22日（会期 6/21-22 大会長 木佐健悟）
7. 山本なつみ、太田龍一、阿部香澄、岡耕平、佐藤裕、田中悠大、堀西祐多、天野志保、山根史子、山崎章、佐野千晶：腹膜炎症状が先行した播種性帯状疱疹による腹膜炎の一例. 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、対面 ポスター、札幌 札幌市産業振興センター 2025年6月22日（会期 6/21-22 大会長 木佐健悟）
8. 田中悠大、太田龍一、佐野千晶：早期ステロイドパルスとエンドキサンパルスで救命しえた高齢発症のIPAFの一例. 第16回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、対面 ポスター、札幌 札幌市産業振興センター 2025年6月22日（会期 6/21-22 大会長 木佐健悟）
9. 竹谷健、羽田野義郎、佐野千晶、森山繭子、山下智子、蓼沼拓、金井由貴枝、石川 雅子、土井教雄、岡崎美香、和氣玲、牧石徹也：子宮頸がんワクチンキャッチアップ接種にむけた大学病院での取り組み. 第72回日本小児保健協会学術集、ポスター、金沢 2025年6月28日（会期 6/27-29 会頭 越田理恵）

10. 佐野千晶：医学生の地域医療実習感想からみた島根大学医学部在宅医療教育の現地点. シンポジウム6 素養としての在宅医療・学術としての在宅医療教育 第57回日本医学教育学会大会 対面 シンポジスト、秋田 あきた芸術劇場ミルハス 2025年7月25日（会期 7/25-27 実行委員長 長谷川仁志）

11. Yoshihito Funo, Chiaki Sano, Hiroyuki Taniura, Eisaku Taniguchi: Analysis of Out-of-hospital Cardiac Arrest Patients Using the Utstein Style. 2025 Cardiac Arrest Survival Summit, Poster, AZ USA, December 3-6, 2025

【講演】

1. 佐野千晶：非結核性抗酸菌症. ミニレクチャー7 第3回 中国地区フレッシュャーズキャンプ in 島根 対面 口頭（世話人代表 島根大学泌尿器科学講座 和田耕一郎） 2025年5月24日 出雲 出雲大社（おおやしろ）内社務所
2. 佐野千晶、家本美佳、布野慶人、堀田優希江：恒久定員内への地域枠等の移行・設定状況 ー島根大学医学部医学科入試制度改革 第16回中四国地域医療フォーラム プレ集会、対面 口頭（山口大学 黒川典枝） 2026年2月6日 山口
3. 堀田優希江：キャリア形成とライフイベントの両立について 第16回中四国地域医療フォーラム 本集会、対面 口頭（山口大学 黒川典枝） 2026年2月7日 山口

【学外嘱託講師】

1. 佐野千晶：島根リハビリテーション学院 理学療法学科 作業療法学科 1年 「感染症」「中毒・物理的因子による疾患」 対面 2025年6月9日
2. 佐野千晶：和歌山県立医科大学 医学科1年生 医学概論2「Work-life balance and health promotion」 オンラインライブ 2025年12月16日

【学会以外の発表】

1. 佐野千晶：島根大学医学部地域医療支援学講座 取り組み報告、令和7年度しまね地域医療の会（ハイブリッド 対面発表） 2025年7月6日、出雲・出雲ロイヤルホテル（会長 山口 修平）
2. 佐野千晶：地域医療教育に関する本学の取り組みと課題 第21回島根大学医学部附属病院関連病院長会議（対面） 2025年10月31日、島根大学医学部
3. 佐野千晶：島根大学医学部における地域医療教育. 4大学医学部医学科による高校生向け地域枠・地域医療合同説明会（ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 山里海医学共育プロジェクト）

ト) ライブ配信 2025年8月4日/オンデマンド配信 フルオンライン

4. 佐野千晶：これまでの取り組みと今後の取り組みについて 島根大学成果報告. ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業 山里海医学共育プロジェクト 中間報告シンポジウム 2026年1月23日 ハイブリット オンライン発表

【特別な会議 その他】

1. 佐野千晶 [理事・専任医師]：令和7年度しまね臨床研修医合同研修会 2025年4月18日、松江
主催：しまね地域医療支援センター・島根県医師会
2. 佐野千晶、家本美佳、吉岡みち子、谷口栄作 [講演/ファシリテーターなどの後援]：地域医療を守り育てる住民活動 in 隠岐 2025年7月12日、隠岐 主催：地域医療を守り育てる住民活動 in 隠岐実行委員会（実行委員長 脇立夫、事務局 斎藤靖）
3. 佐野千晶：[保健部門外部評価委員] 令和6年度島根県保健環境科学研究所・原子力環境センター調査研究課題等検討委員会 2025年8月16日、松江
4. 佐野千晶 [委員長]：雲南市立病院経営強化プラン評価委員会 2025年11月6日、対面、主催：雲南市立病院
5. 佐野千晶：[委員長] 令和6年度出雲市立総合医療センター経営評価委員会 2026年2月5日、対面、主催：出雲市立総合医療センター
6. 佐野千晶：[世話人] 2025年度島根県院内感染制御ネットワーク会議 2026年2月11日、ハイブリッド 出雲 ビッグハート出雲
7. 佐野千晶：[地域の医療及び医師養成の在り方に関する委員会委員・グループファシリテーター] 全国医学部長病院長会議（AJMC）「地域枠制度についての意見交換会」対面、2026年3月5日、東京
8. 佐野千晶：[理事] 地域医療教育協議会 理事会 2026年3月6日：対面 東京 一橋講堂
9. 佐野千晶：[委員] 令和7年度 鳥取大学医学部地域医療学講座あり方懇話会 2026年3月12日：オンライン参加 ハイブリッド開催 主催：鳥取大学医学部
10. 佐野千晶：[世話人] 雲南リサーチミーティング フルオンライン 月1回開催
11. 堀田優希江：[附属病院ワークライフバランス支援室、室員] ワークライフバランス支援室連絡会 月1回開催
12. 堀田優希江：[島根大学ダイバーシティ推進室、室員] ダイバーシティ推進室会議 ハイブリット 年4回開催
13. 堀田優希江、家本美佳：学生懇談会（出雲保健管理センター主催） 月1回

- 14.家本美佳：しまねの公衆衛生とつながる会「LINK」（島根県、地域医療支援学講座、環境保健医学講座主催） 月1回開催支援

【学会／講習等参加】（年度開始）

1. 日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会島根県地方部会 対面（佐野 堀田） 出雲 2025年4月20日
2. 島根大学医学部附属病院 医療安全 院内TeamSTEPPS研修 対面（佐野） 2025年5月2日
3. 笑い療法士認定講習（対面講習：スクーリング）（佐野） 東京 2025年8月31日
4. 2025年度 島根県HIV講習会 対面（佐野） 2026年1月16日
5. 第3回島根感染対策セミナー学術集会 対面（佐野） 2026年2月11日
6. 第39回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会 オンデマンド受講（佐野） 2025年12月17日 ～ 2026年3月10日
7. 笑い療法医認定講習会（対面講習：スクーリング）（佐野） 東京 2026年2月22-23日
8. 第17回全国シンポジウム「地域推薦卒医学生の卒前・卒後教育をどうするか？」新たな地域医療構想を踏まえた教育実践 ～高齢者救急・在宅医療について～（佐野） 主催：鹿児島大学大学院医歯薬総合研究科地域医療学分野／離島へき地医療人育成センター、全国地域医療教育協議会 対面参加、東京、2026年3月6日
9. AHA（アメリカ心臓協会）島根大学医学部BLSコース開催 5、7、9、11、12月 76名受講、布野慶人（主催者として）
- 10.AHA（アメリカ心臓協会）ACLSコース参加 7、9月、布野慶人（インストラクター）
- 11.AHA（アメリカ心臓協会）鳥取大学医学部BLSコース開催 6、8月 10名受講、布野慶人（主催者として）
- 12.科研費獲得支援セミナー、2025年5月23日 島根大学松江キャンパス（布野）
- 13.第29回日本臨床救急医学会総会・学術集会 Online、2025年7月16日（布野）
- 14.令和7年度島根県ロジスティック研修、2025年10月11日 松江赤十字病院（布野）
- 15.出雲地区MC協議会、2025年10月23日 島根県立中央病院（布野）
- 16.令和7年度第2回わたしの町の看護師さん事業研修会・意見交換会（家本） 主催：大田市健康福祉部地域医療推進課 大田市役所 2025年12月19日
- 17.第90回癒しの環境研究会「救急医療にも癒しのところを」オンラインセミナー東京（家本） 2026年3月11日



写真で見る1年間

PHOTO

4月 地域枠等特別選抜枠
新入生説明会・意見交換会



4月 キャリアセミナー(吉野 純先生)



4月 地域医療セミナー(木島 庸貴先生)



4月 三者会議(毎月開催)



5月 医学科1年生キャリアガイダンス



5月 キャリアセミナー(野々村 由紀先生)



5月 地域医療セミナー(平原 佐斗司先生)



5月 地域医療体験実習Ⅱ(フレキシブル実習)
& ポストコロナ事業実習報告会



5月 第1回しまね総合診療の集い



6月 第1回高校生対象
しまねの地域医療セミナー



6月 キャリアセミナー(小池 千明先生)



6月 医学生有志企画
地域医療セミナー(形岡 洋光先生)



6月 1年生学年会



6月 6年生学年会



7月 第1回えんネット交流会



7月 地域医療を守り育てる住民活動 in 隠岐



7月 地域医療セミナー特別講演
地域医療研究会との共催(瀬島 斉先生)



7月 地域医療研究会OB会



7月 医学生有志企画
地域医療セミナー(マイケルボイス先生)



7月 キャリアセミナー(大嶋 直樹先生)



8月 オープンキャンパス



8月 地域医療体験実習I(夏季地域医療実習)



8月 島根県知事表敬訪問



8月 松江市内3病院見学バスツアー



9月 研究室配属



9月 ワークライフバランスセミナー
(高柳 和江先生)



9月 キャリアセミナー(山本 慧先生)



10月 キャリアセミナー(吉金 努先生)



9月 オキフェス2025
しまね総合診療の集い学生参加支援



9月 ウェスタンカーニバル2025
しまね総合診療の集い学生参加支援



10月 横田高校と島根大学医学部との高大連携



10月 地域医療セミナー(三谷 雄己先生)



11月 第4回しまね総合診療の集い



11月 浜田市金城町さざんか祭り
地域医療研究会学生参加支援



11月 職員FD(下田 彬先生)



12月 キャリアセミナー(河原 愛子先生)



11月 ドクターキャリア形成特別講義



11月 臨床実習入門特別講義(香田 将英先生)



11月 地域枠等全学年会



11月 地域医療体験実習Ⅱ
(フレキシブル実習)報告会



12月 臨床実習入門特別講義(山口 育子先生)



12月 第2回高校生対象
しまねの地域医療セミナー



12月 地域医療セミナー(齊藤 稔哲先生)



12月 キャリアセミナー(岸 博子先生)



12月 第2回えんネット交流会



1月 キャリアセミナー(金井 理絵先生)



1月 感染症セミナー(青木 眞先生)



1月 2年生学年会



1月 5年生学年会



1月 職員FD(阿江 竜介先生)



1月 令和7年度第5回しまね総合診療の集い



2月 中四国医療フォーラム



2月 キャリアセミナー(有竹 洵先生)



2月 横田高校と島根大学医学部との高大連携



2月 令和7年度第6回しまね総合診療の集い



3月 地域医療体験実習I(春季地域医療実習)



島根大学医学部地域医療支援学講座
メンバー紹介

講座紹介

1年間のあゆみ

業績

写真で見る1年間

おわりに

MESSAGE

2025年度は、医療を取り巻く環境が大きく変化し続けた一年でした。人口減少と高齢化の進行に加え、医師の働き方改革が本格化する中で、地域医療体制の維持や医師偏在への対応がこれまで以上に重要な課題として浮き彫りとなりました。そのような状況の中、地域に根ざした医療を担う人材を育成することの重要性を改めて強く実感した一年でもありました。

このような背景のもと、当講座が主催するセミナーや「しまね総合診療の集い」などのイベントでは、対面での交流を重視した実施を心がけてまいりました。「全学年会・学年会」や「食事を伴うセミナー」など、学生や地域の先生方が直接顔を合わせて学び合う機会を大切にし、つながりを深める場を継続的に提供することができました。

一方で、医療DXの進展により、医学教育の現場でも学修環境の多様化が一層進んでいます。オンラインを活用した学習支援や、対面とWebを併用したハイブリッド型教育は、今後も欠かすことのできない教育手段であると強く感じた一年でした。また、医療体制の逼迫が社会的課題となる中で、地域医療を支える人材の育成と教育の重要性はますます高まっています。

今後も講座全体のブラッシュアップを図り、学生一人ひとりの成長を支えながら、地域医療の発展に貢献できるよう一丸となって取り組んでまいります。あわせて、地域の医療機関や行政、多職種の皆さまとの連携をさらに深め、教育と実践の双方をより充実させていきたいと考えております。変化の大きい時代にあっても、地域に根ざした医療を担う人材を育成し、島根から全国へ発信できる教育・研究活動を進めてまいります。今後ともご指導とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和8年3月1日

地域医療支援学講座 助教 布野慶人